Honda除雪機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

●一般公道では使用できません。

取扱説明書について

この取扱説明書は

－除雪作業をするときは、必ず携帯してください。

－除雪機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。

－紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

---

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた除雪機で安全かつ能率的な除雪作業をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。
本書はHSS1170iを中心に編集しています。

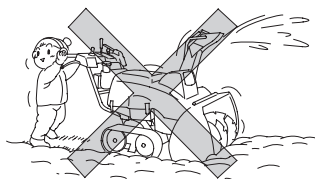
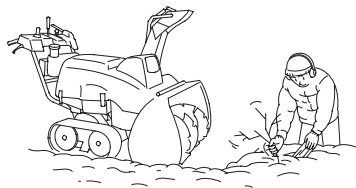
目　　　　次

安全にお使いいただくために

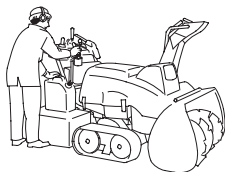
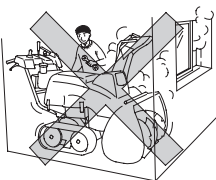
⚠警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

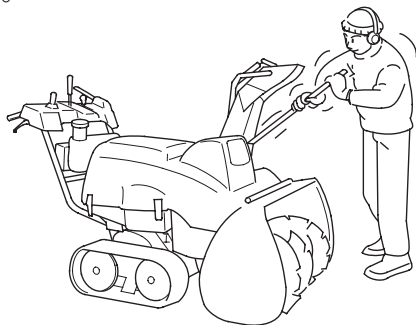
- 過労や飲酒、薬物を服用して除雪機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- この取扱説明書および除雪機に取付けられているラベルを事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上自分で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
- エンジンを始動する前に必ず「エンジンをかける前の点検」（25～29頁）を行ってください。事故や機器の損傷防止になります。
- 悪天候などで視界の悪いときは作業をしないでください。事故の危険性が高くなります。
- 適切な指示なしでは絶対に誰にも除雪機の運転操作をさせないでください。特に子供には操作させないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して除雪機を操作しないでください。また誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
- 本機は除雪以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 除雪作業を行う前に除雪しようとする場所を点検してください。ケガや除雪機の故障の原因となることがあるので石、棒、板、針金などの障害物を取除いてください。また降雪した後で障害物が見えなくなる場合があるのでシーズン前にあらかじめ除雪する場所の障害物を取除くようにしてください。

こ れ だ け は ぜ ひ 守 り ま し ょ う

⚠警告

- 作業をする時は、手袋、帽子、防寒服、防寒靴など防寒用の身支度をしてください。また防寒靴はすべり止めのあるものを着用してください。
- 砂利道などの除雪は、石の飛び出しなど非常に危険を伴いますので注意してください。
- ソリ、スクレーパを適切に調節し、オーガが石を巻き込まないようにして作業してください。
- 投雪場所は石が飛び出しても支障がない所を選んでください。
- 石を巻き込むと、除雪機の故障の原因となるとともに思わぬ事故の原因にもなります。
- 定められた点検を必ず行い、不具合のある場合は使用前に修理をしておき、不備な状態での使用は絶対に行わないでください。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して屋外の換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。
- 燃料をこぼさないように注意し、給油限界位置を超えないように補給し、燃料キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。

- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

- 屋根に積った雪や急斜面での除雪は行わないでください。除雪機が転倒して作業者や近くにいる人にケガをさせることがあります。

⚠警告

●作業中の注意

- 除雪部は回転しており誤って触れると大ケガをするおそれがあるので、手足などを絶対に近づけないようにしてください。また、作業範囲に人や動物が近づかないように十分注意してください。人や動物が近づいたときは除雪をやめてください。
- 除雪部分や投雪口は危険ですので顔や手足などを絶対に近づけないでください。
- 投雪方向を人や建物等に向けて使用しないでください。投雪方向の調節は状況に応じて適切に行ってください。
  雪の中に氷や石が混入している場合にはそれらが雪よりも遠くまで飛ぶことがあるので、余裕をもって調節してください。
- 万一、雪の中に石などの異物が混じっている場合は、それらが投雪口からだけでなく、除雪部から前方に投げ出されることがあるので、前方にも常に注意してください。
- 除雪部および投雪口に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチ　キーを抜き、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。
  エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。

⚠警告

- 急発進は、絶対に行わないでください。思わぬ事故の原因となることがあるので必ず前後進速度調節レバーを“N”(中立)の位置(17頁参照)にしてから走行クラッチ　レバーを握り、徐々に前後進速度調節レバーを操作してください。
- 雪の上での作業は滑りやすく、転倒するおそれがあります。滑りやすい場所では低速で運転してください。除雪中は足元に注意しハンドルをしっかりと握り、決して走らないでください。また方向転回時は、必ず本機を水平にし十分速度を落として行ってください。特に後進時には、足元および後方に十分注意してください。
- 共同作業は行わないでください。思わぬ事故を招くことがあります。
- 除雪中障害物に当ったときはすぐにエンジンを止め、エンジン　スイッチキーを抜き、回転部が停止していることを確認してから注意して損傷を調べてください。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。
- 傾斜面は横切って除雪しないでください。
  傾斜面で方向を変える場合には、本機の動きが平地と異なることがありますので十分注意してください。
- 作業中に異常な振動や音が発生し始めた場合には、ただちに運転を中止し、その原因を調べてください。
- 駐車をするときは平坦な場所に駐車してください。

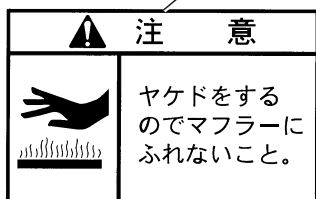
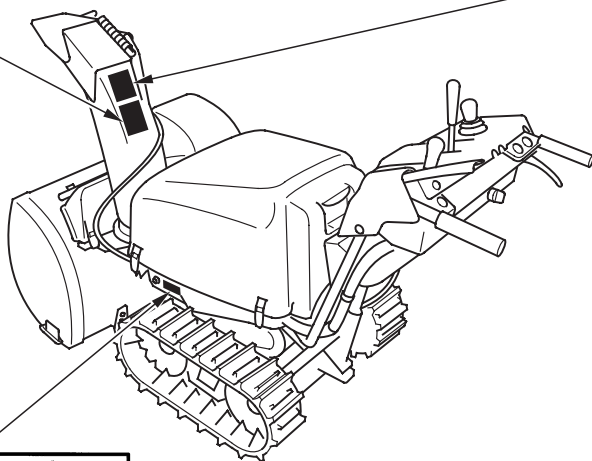
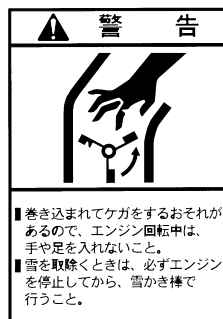
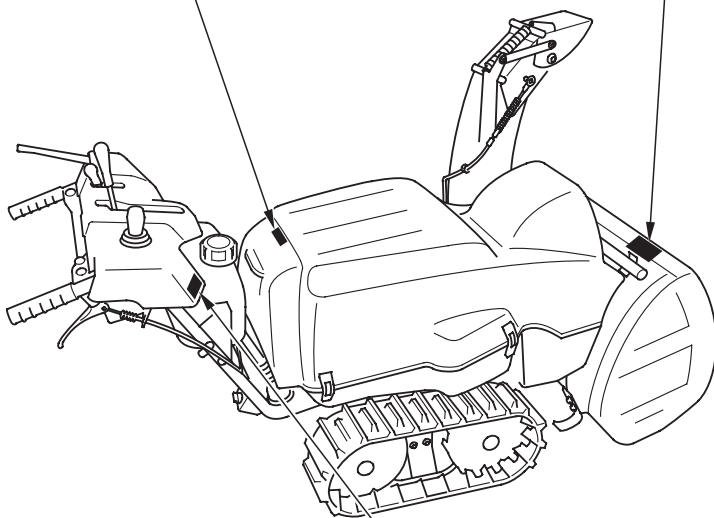
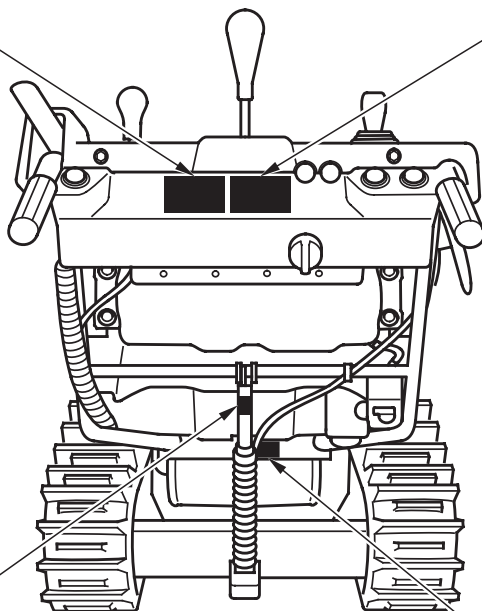
⚠警告

●作業が終ったら

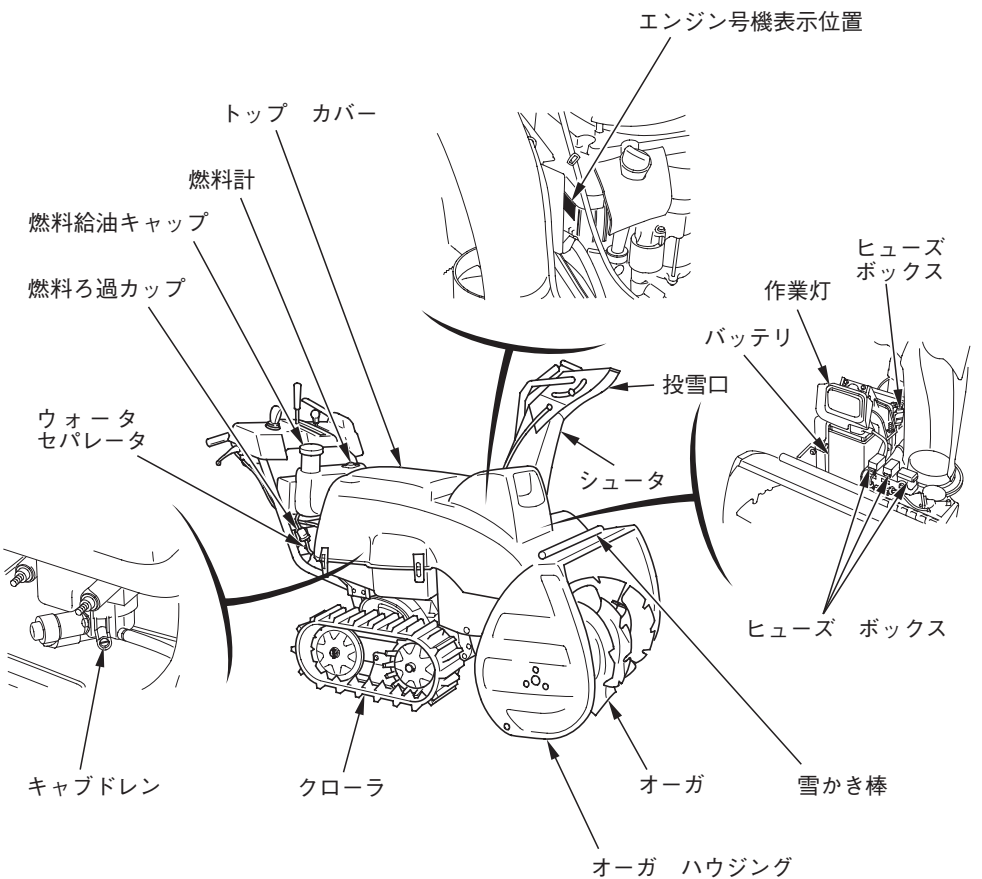
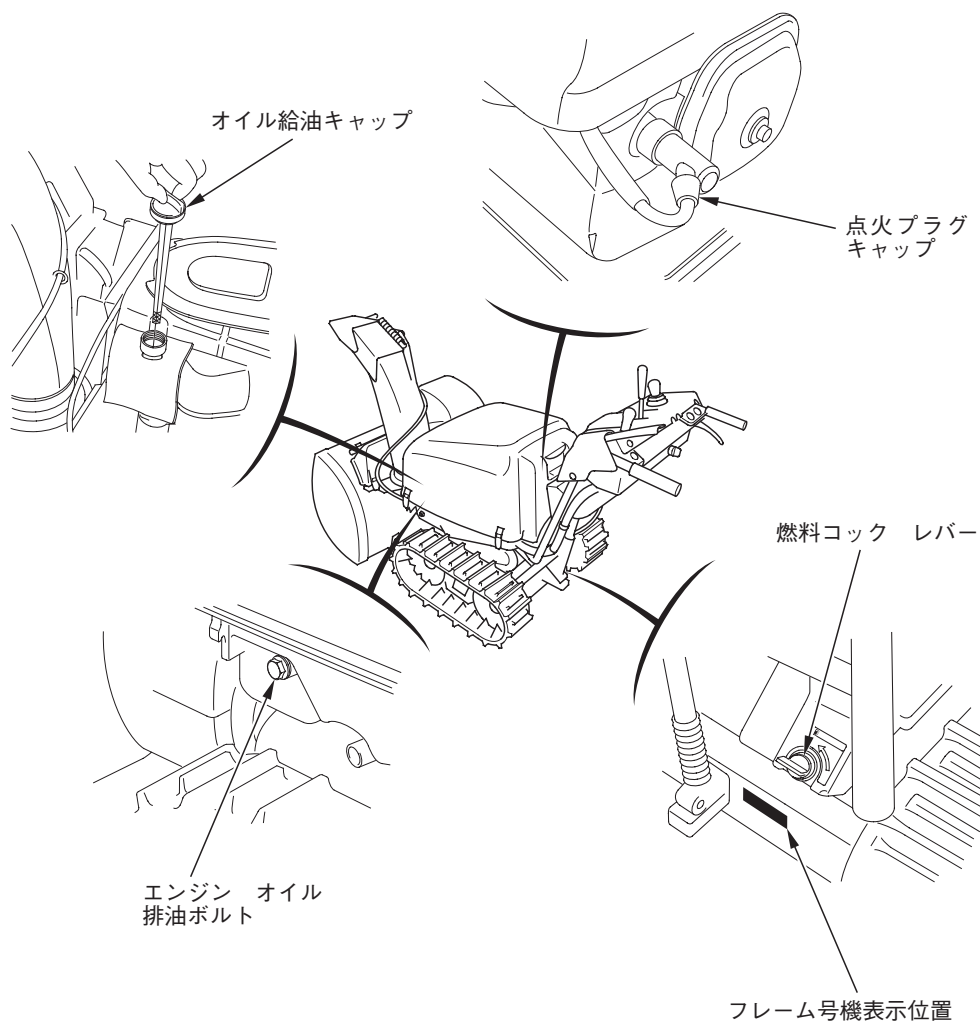
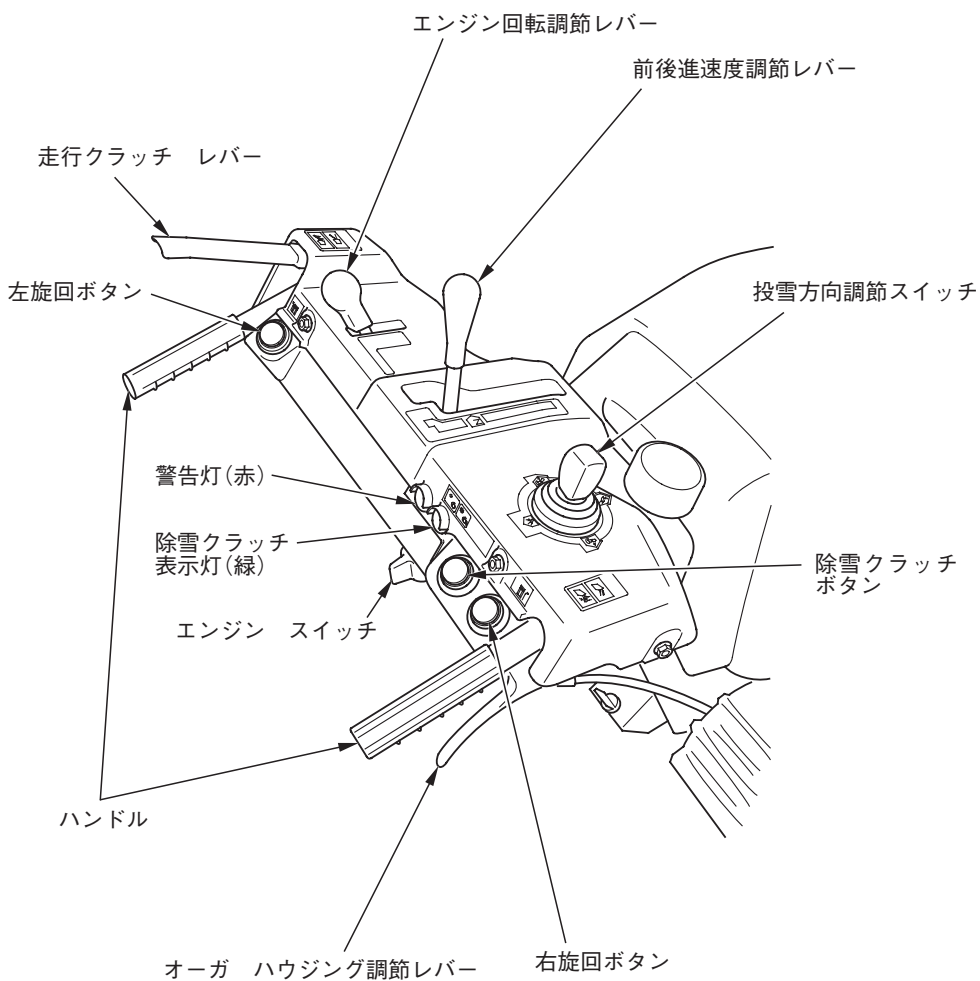
- 本機から離れるときには、オーガ　ハウジングを路面に接地させ、必ずエンジンを止め、エンジン　スイッチ　キーを抜いてください。いたずらなどで本機が動きだし、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 本機を格納するときやボディー　カバーをかけるときは火災の原因とならないように、エンジンが冷えたのを確認してから行ってください。
- 長期保管時には、タンク内の燃料を抜きとり本機を火気のない所に保管してください。また抜いた燃料は引火性があり、火災や爆発のおそれがありますので所定の燃料タンクなどに保管してください。
- 点検や清掃をするときは必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチ　キーを抜いて行ってください。また、エンジン停止直後のエンジン本体やマフラなどは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。
- 枯草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車保管しないでください。排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。
- 植込みなどの近くに駐停車するときには、排気ガスが当たらないように、本機の向きを決めましょう。

安全ラベル

除雪機を安全に使用していただくため、本機は安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。

本機に貼ってあるラベルの破れ、紛失または汚れなどでラベルが読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものに貼り替えてください。安全ラベルはお買い上げ販売店にご注文ください。

注　意
手や衣服が巻き込まれるので
カバー類を外してエンジンを
運転しないこと。
危　険
▮巻き込まれて死傷するおそれ
があるので、エンジン回転中
は、手や足を入れないこと。
▮雪を取除くときは、必ず
エンジンを停止してから、
雪かき棒で行うこと。
警　告
火災や爆発により死傷
するおそれがあるので、
●給油時にはエンジンを停止
すること。
●給油口に火を近づけないこと。
火気
厳禁

警　告
排気ガスによる中毒の
おそれがあるので、換気の
悪い所で使用しないこと。
はさまれてケガをするおそれ
があるので、後進するときは
後方に障害物がないか確認
すること。
警　告
死傷事故防止のため、下記および
取扱説明書を読み、理解して
正しく扱うこと。
●急発進防止のためエンジンを始動するときは、
全てのクラッチを切り、
前後進速度調節レバーを中立にすること。
●点検整備時はエンジンを停止すること。
警　告
高圧ガス封入品につき
• 破裂によりケガをする
おそれが有るので、分解
したり、火中に投じた
りしないこと
• 機能損傷するおそれが
有るので、手をかけたり
ロープ掛け等しないこと
注　意
ヤケドをする
のでマフラーに
ふれないこと。

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

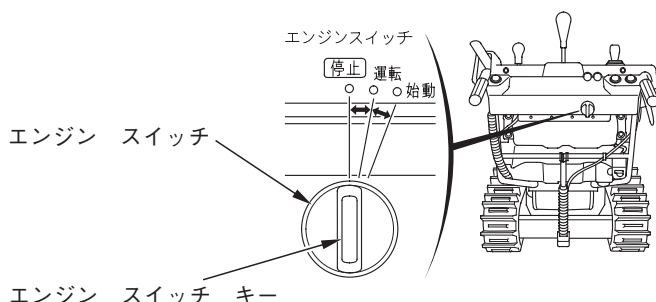
オイル給油キャップ
点火プラグ
キャップ
燃料コック　レバー
エンジン　オイル
排油ボルト
フレーム号機表示位置

エンジン回転調節レバー
前後進速度調節レバー
走行クラッチ　レバー
左旋回ボタン
投雪方向調節スイッチ
警告灯(赤)
除雪クラッチ
表示灯(緑)
除雪クラッチ
ボタン
エンジン　スイッチ
ハンドル
オーガ　ハウジング調節レバー
右旋回ボタン

エンジン　スイッチ

エンジンを始動、運転、停止するときに操作します。

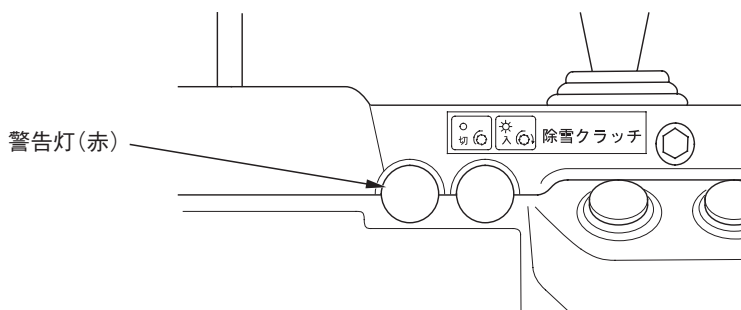
停止‥‥ エンジンを停止するときの位置です。
（エンジン　スイッチ　キーの抜き取り、差しこみができます。）

運転‥‥ エンジン運転中の位置です。各電気系統がつながります。

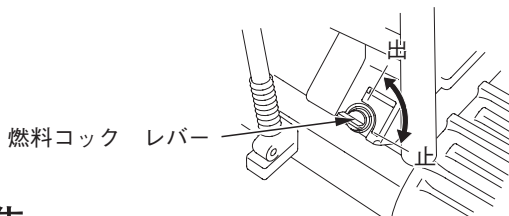
始動‥‥ エンジンを始動させるときこの位置まで回します。スタータ　モータが回ります。エンジンが始動したらキーから手を放してください。自動的に**"運転"**の位置に戻ります。

警告灯（赤）

除雪機の故障を警告灯（赤）の点灯と点滅により知らせます。

警告灯（赤）はエンジン　スイッチを**"運転"**の位置にすると点灯し、エンジンが始動すると消灯するのが正常です。点灯しない場合はお買い上げ販売店で点検を受けてください。

- 運転中に点灯または点滅した場合は、安全な場所に移動してエンジンを停止し、故障診断表（69頁参照）の説明を参考に対処してください。

燃料コック　レバー

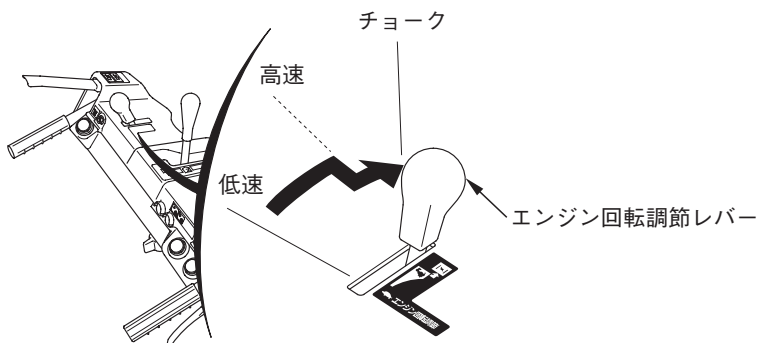
燃料タンクからキャブレータまでの燃料通路を開閉するときに操作します。

操作は確実に**“止”“出”**の位置に合わせます。

⚠警告

- 本機を運搬するときや、保管および点検整備時に本機が傾く可能性のある場合には、燃料漏れを防ぐためにレバーを**“止”**の位置に合わせてください。こぼれた燃料が引火することがあります。

エンジン回転調節レバー

エンジン回転を調節するときに操作します。状況に応じて回転数を調節してください。

- エンジン始動時、エンジンが冷えているときは、**“チョーク”**の位置に合わせてください。エンジンが暖まっているときは、**“高速”**の位置に合わせてください。
- 除雪作業時は**“高速”**の位置でご使用することをおすすめします。

前後進速度調節レバー

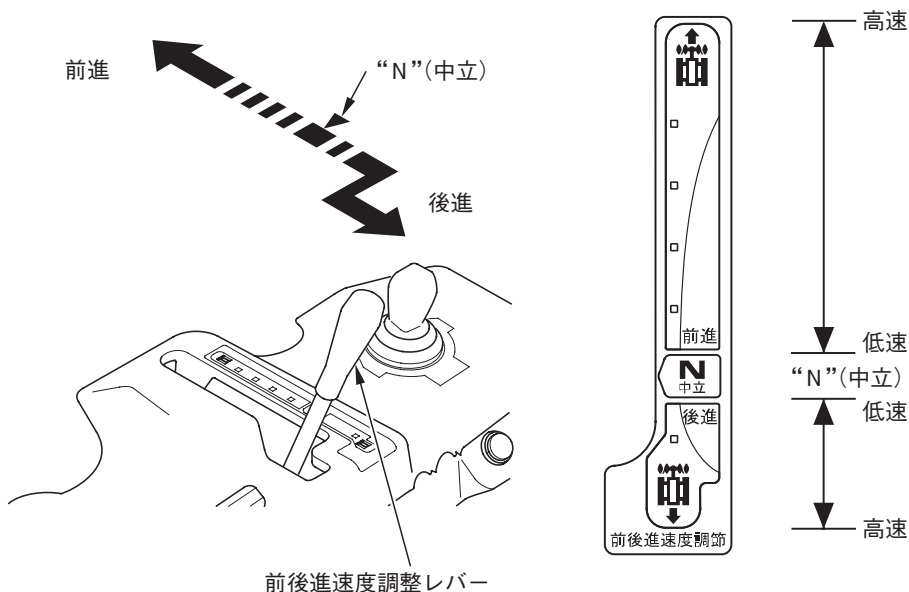
本機を前進、後進するときに操作します。

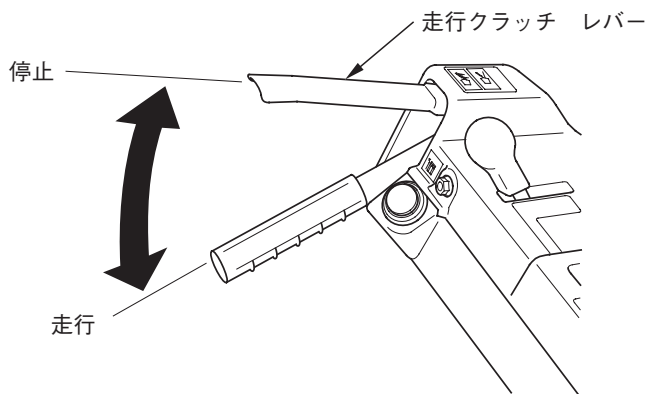
前進、後進の前後進速度調節レバーの位置により速度を無段階に調節することができます。

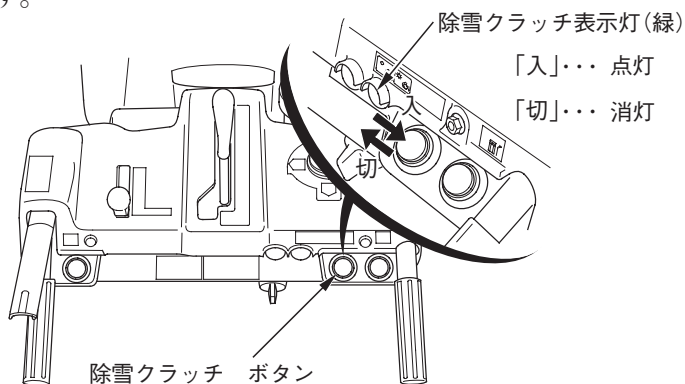
前進するときは ················“N”(中立)の位置から前方へ徐々に動かします。

後進するときは ················“N”(中立)の位置から後方へ徐々に動かします。

本機を使用しないときは“N”(中立)の位置にしてください。

- 雪質に合わせて前後進速度調節レバーの位置を選び、速度を設定し、除雪作業をします。
- 移動時は路面や周囲の状況に合わせて速度を設定してください。

走行クラッチ　レバー

走行クラッチ　レバーを握ると前後進速度調節レバーの位置の速度で走行し、離すと止まります。

除雪クラッチ　ボタン

除雪クラッチ　ボタンを押すと、除雪クラッチ表示灯(緑)が点灯し、オーガとブロアが回転します。除雪クラッチ　ボタンを放すと消灯し、数秒後にオーガとブロアの回転が止まります。

除雪クラッチ　ボタンと走行クラッチ　レバーを連動して作動させることができます。(38頁参照)

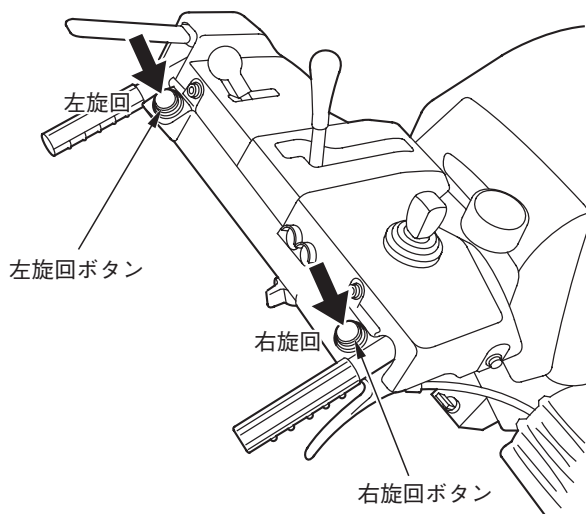
- 除雪クラッチ　ボタンを押しても除雪クラッチ表示灯(緑)が点灯せず、またオーガとブロアも回転しない場合は、お買いあげ販売店で点検を受けてください。

旋回ボタン

本機の方向を変えるときに操作します。

走行中に旋回したい方向のボタンを押すと、押した方向に本機が旋回します。前後進速度調節レバーの位置によって旋回径が変わります。

右旋回 ……………………………………右旋回ボタンのみを押します。

左旋回 ……………………………………左旋回ボタンのみを押します。

⚠警告

- 旋回するときは、十分スピードを落としてください。雪の上での作業は滑りやすく転倒するおそれがあります。
- 旋回ボタンを操作するときは、周囲の安全を十分確認してください。ハンドルや操作パネルに体が触れないよう注意してください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 路面の状況（アスファルト・雪・傾斜・凸凹等）により旋回径および運転感覚が変わる場合があります。

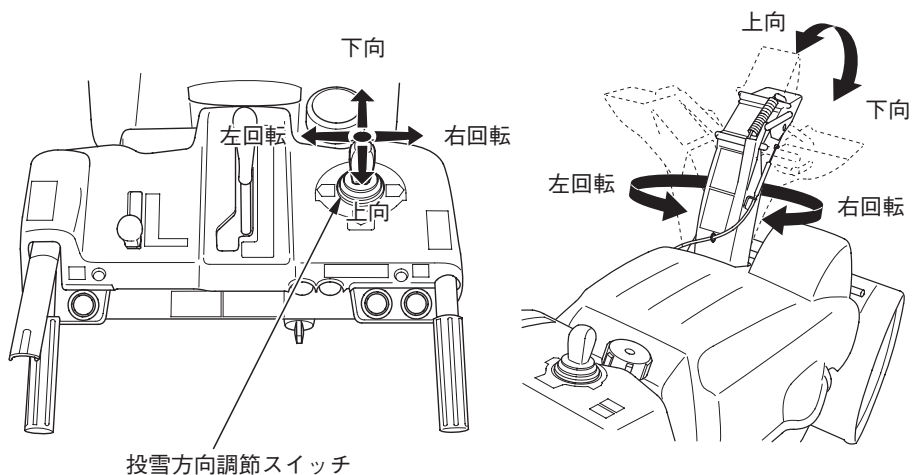
投雪方向調節スイッチ

投雪距離と方向を変えるときに操作します。

エンジン　スイッチを**"運転"**の位置にし、スイッチを操作することによって投雪口を上下、左右に無段階に調節することができます。(37頁参照)

投雪方向調節スイッチはエンジンが運転しているときに操作してください。エンジン停止中に操作するとバッテリが消耗します。

- シュータ／シュータ　ガイド　モータがロックした状態で投雪方向調節スイッチを操作し続けると保護機能が働き、動かなくなることがあります。動かなくなった場合は、時間をおいてから再度操作してください。

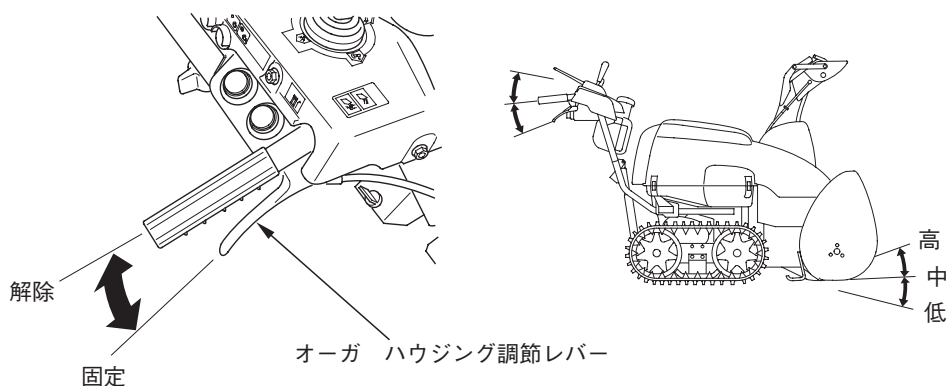
⚠注意

投雪距離や方向を変えるときには人や建物などに注意して行ってください。

オーガ　ハウジング調節レバー

除雪部の高さを調節するときに操作します。

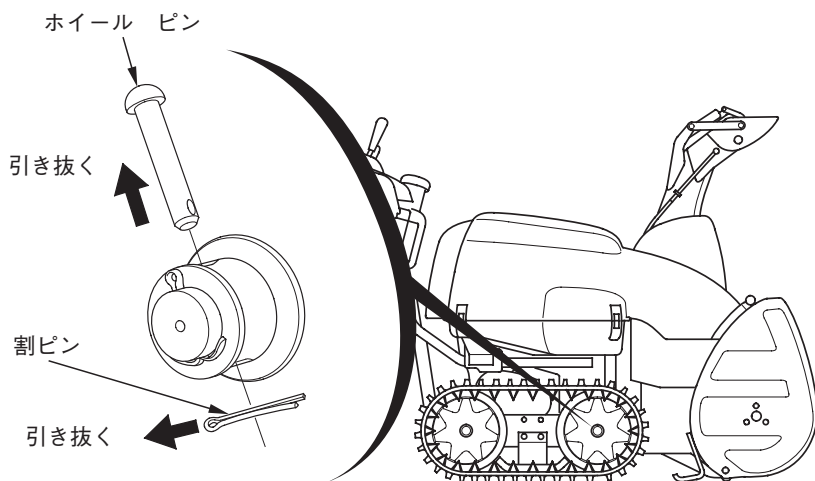
オーガ　ハウジング調節レバーを握った状態でハンドルを押し下げるとオーガ　ハウジングが上がり、押し上げるとオーガ　ハウジングが下がります。オーガ　ハウジング調節レバーを放すとオーガ　ハウジングは固定されます。

除雪作業に合わせて、除雪部の高さを無段階に調節できます。(35頁参照)

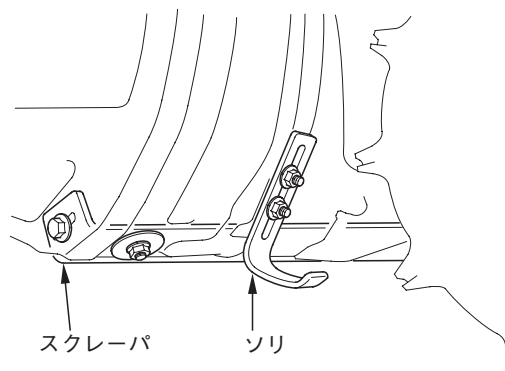
⚠注意

オーガ　ハウジング調節レバーを“高”の位置から操作するときは、ハンドルをしっかりささえてください。ハンドルが本機の自重により急激に戻される場合があります。

ホイール　ピン

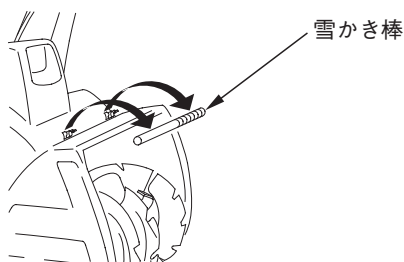
エンジンやモータの故障などで本機が動かなくなったときは、左右前輪駆動輪のホイール　ピンを引き抜くと、クローラが空転状態となり、押して移動することができます。(74頁参照)

⚠警告

- ホイール　ピンを抜くときはエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチ　キーを抜きます。各回転部が完全に止まってから作業を行ってください。
- 傾斜地ではホイール　ピンを抜かないでください。本機が空走して、思わぬ事故を招くことがあります。
- 移動後は平坦な場所に駐車し、ホイール　ピンを取り付けるときは新しい割ピンを使用してください。

ソリ、スクレーパ

除雪する路面の状態に合わせて調節してください。ソリは除雪部と路面との高さを決め、スクレーパは除雪面をならします。調節のしかたは、33頁を参照してください。

雪かき棒

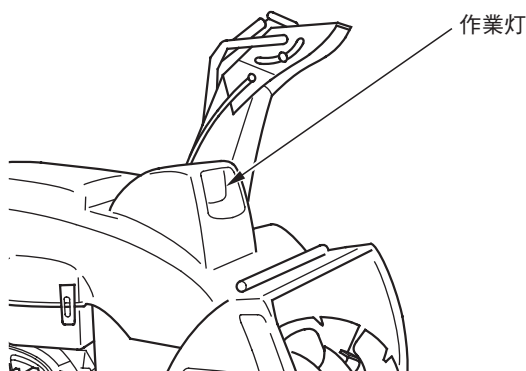
雪が除雪部や投雪口に詰まったときに使用します。

雪かき棒を使用した後は汚れを拭き取り、きれいにしてから必ず元の取付け位置にセットしてください。

⚠警告

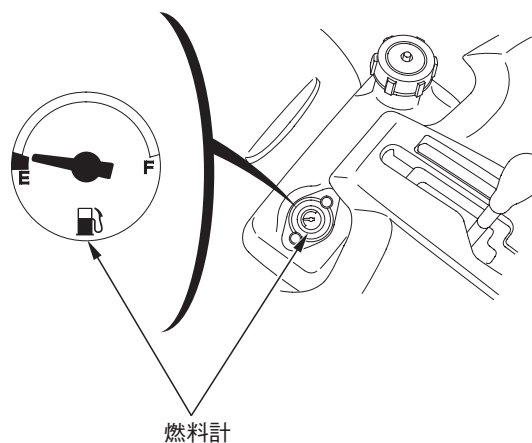
除雪部および投雪口に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチ　キーを抜きます。各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。

作業灯

エンジン　スイッチを**“運転”**の位置にすると点灯します。エンジンを始動させずに作業灯を点灯させ続けると、バッテリが消耗して使用できなくなるおそれがあります。

作業灯が点灯しない場合、バルブ切れのほかバッテリに異常がある可能性がありますので、バッテリの点検も実施してください。

燃料計

燃料の残量を示します。

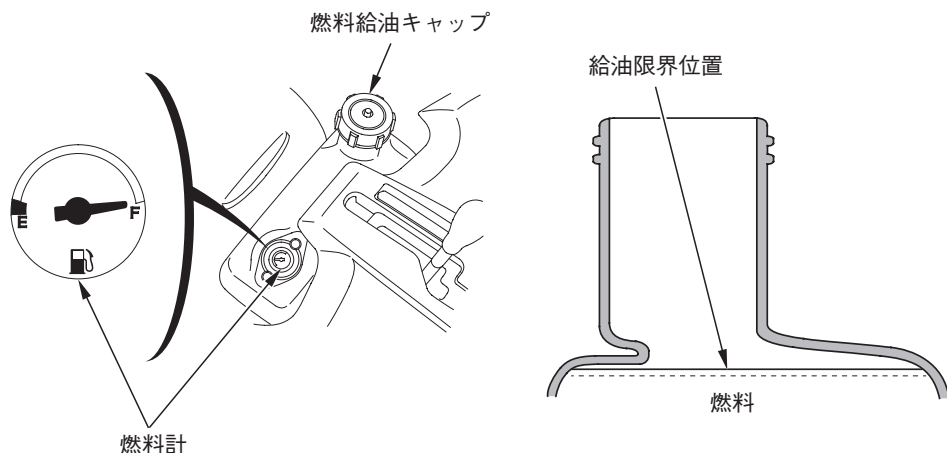
燃料計の針が“ E ”(空)に近づいたら早めに燃料を補給してください。

エンジンをかける前に点検しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所でオーガを完全に路面に接地させます。本機を水平にして、エンジンがかからないようにエンジン　スイッチ　キーを抜いて行ってください。

燃料の点検

点検

燃料計の針が“Ｆ”(満)の位置にあるか確認します。少ないときには図の(給油限界)位置まで補給してください。

補給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

- 補給は燃料給油キャップを外し、給油限界位置(上図の位置)を超えないように補給します。
- 使用条件により給油限界位置はさらに低くしてください。
- 補給後、給油キャップを確実に締付けてください。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

ガソリンを補給するときは

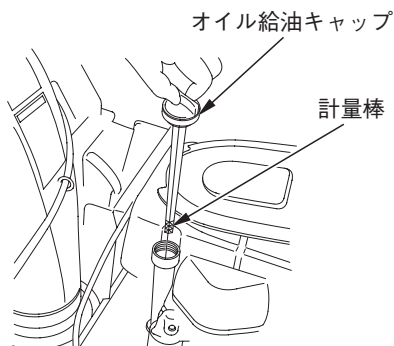
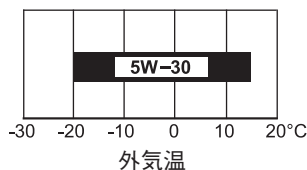
- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを、負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に手を触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内のガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあります。

取扱いのポイント

- 水や不純物が混ざっていない、新しいガソリンを使用してください。
  ガソリンは自然劣化しますので30日に１回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。
  劣化したガソリンを使用するとエンジン故障の原因となります。
- 除雪時に燃料を補給する場合は、燃料タンク内に雪が入らないように注意してください。燃料タンク内に雪が入ると、エンジン不調の原因になります。
- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。

エンジン　オイルの点検

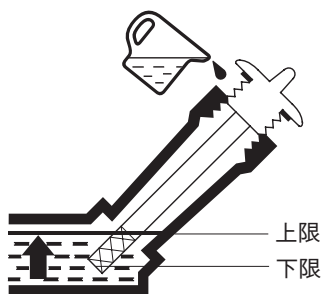
点検

点検は平坦な場所でオーガを完全に路面に接地させます。本機を水平にしてトップ　カバーを取外し（58頁参照）、オイル給油キャップを取外します。オイル給油キャップをねじこまず差し込んで、計量棒の上限までオイルがあるか点検してください。少ないときは新しいオイルを補給してください。

エンジン　オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

補給

推奨オイル：

（4ストローク　ガソリン　エンジン　オイル）
Honda純正汎用寒冷地オイル（SAE 5W-30）またはAPI分類SE級以上のSAE 5W-30エンジンオイルをご使用ください。

オイル容量：1.1ℓ

- 少ないときには新しいオイルを上限まで補給します。
- 汚れや変色がいちじるしい場合は交換してください。（交換時期、方法は51頁参照）

取扱いのポイント

- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。
- 補給、交換時にこぼれたオイルは、布きれなどでふき取ってください。

バッテリの点検

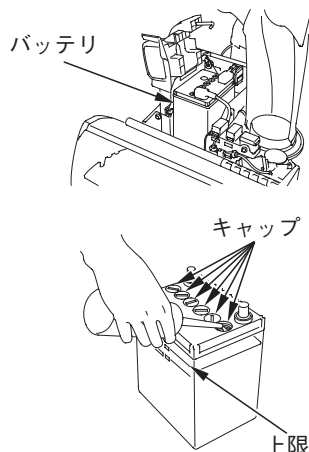
点検

シュータを前向きに動かし、トップ カバーを取外して(58頁参照)バッテリの液面が各槽とも上限(UPPER LEVEL)にあるか点検してください。

同時にキャップの通気孔のつまり、端子のゆるみ(59頁参照)を点検してください。

補給

バッテリ液が少ないときはバッテリを外し、キャップを外して、バッテリ補充液(蒸留水)を上限(UPPER LEVEL)まで補給します。バッテリの取外し、取付けは58頁を参照してください。

⚠警告

- バッテリの取外しは、シュータを前向きで行わないとショートのおそれがあります。
- バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖側から外してください。工具の接触などでショートする場合があります。
- 端子部の取付けがゆるい状態で使用すると、作業灯、警告灯、除雪クラッチ表示灯のバルブが切れることがあります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。

取扱いのポイント

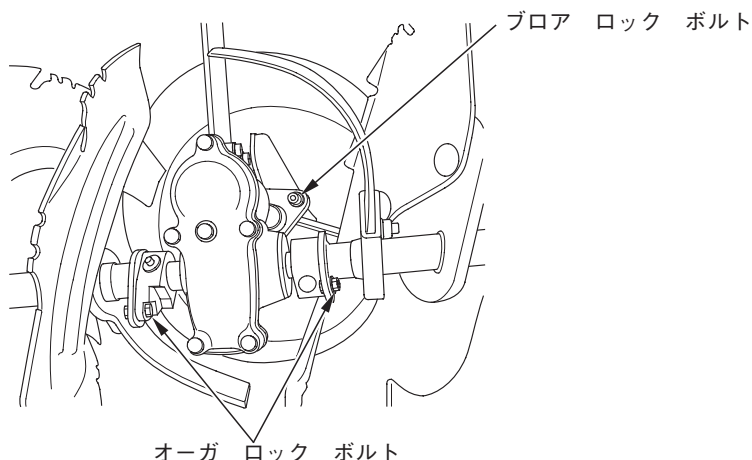
- 長時間使用しない場合には、⊖バッテリ端子を外しておいてください。
  長期間保管中は、6か月に1度補充電を行ってください。(65頁参照)
- バッテリ補充液(蒸留水)を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐食させる原因となります。上限(UPPER LEVEL)以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼしたときには、必ず水洗いをしてください。

オーガ／ブロア　ロック　ボルトの点検

オーガ／ブロア　ロック　ボルトのゆるみ、折れを点検します。

ロック　ボルトは、石のかみ込みなどの異常な負荷が加わったときに、本機の損傷を防ぐために折れるしくみになっています。

もし折れている場合は、55頁の手順に従って交換してください。

⚠警告

オーガ、ブロアを点検するときは必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチ　キーを抜いてください。

その他の点検

- ソリ、スクレーパの点検（33頁参照）
- 次の点検も忘れずに行ってください。

1. 各部の締付け、ゆるみ、ガタはないか
2. エンジン始動後点灯、点滅し続ける警告灯はないか
3. 各部の作動状態
4. 異常箇所………前日悪かった所はないか

その他の異常を感じたら、ただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

エ　ン　ジ　ン　の　か　け　か　た

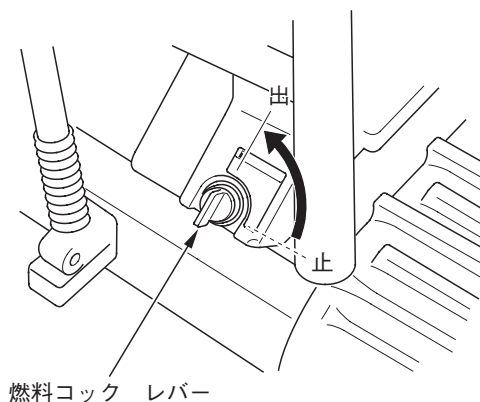
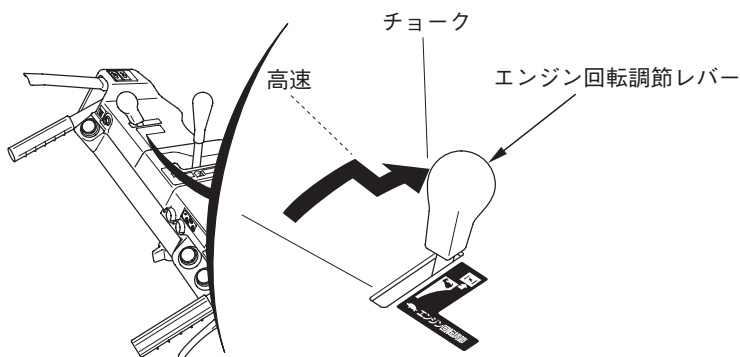
⚠警告

- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。急な坂道で変速レバーを“N”(中立)の位置にすると本機が空走する場合があります。

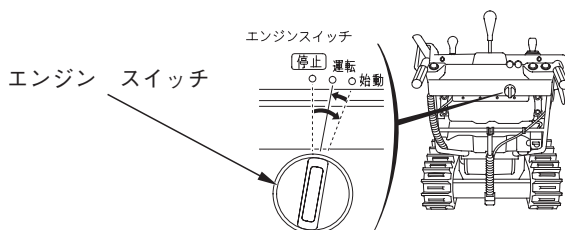
1. 前後進速度調節レバーが“N”(中立)の位置にあることを確認します。

2. 燃料コック レバーを“出”の位置に合わせます。

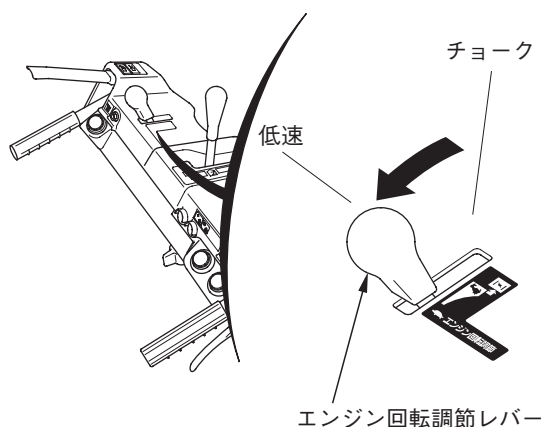
⚠警告

キャブレータのドレン　スクリュがゆるんでいると燃料が漏れる場合があります。(64頁参照)

3. エンジンが冷えているときは、エンジン回転調節レバーを**“チョーク”**の位置に合わせてください。
エンジンが暖まっているときは、エンジン回転調節レバーを**“高速”**の位置に合わせてください。

4. エンジン スイッチを**“始動”**の位置まで回し、スタータを回します。
エンジンが始動したら、エンジン スイッチから手を放してください。スイッチは、自動的に**“運転”**の位置に戻ります。

取扱いのポイント

スタータを回すとき、除雪クラッチ ボタンまたは走行クラッチ レバーを操作していると、スタータは始動しません。(エンジン起動インターロック)

取扱いのポイント

スタータを回して5秒以内でエンジンが始動しないときは、10秒ほど間をおいてから再始動してください。

5. 始動後２～３分間暖機運転を行い、エンジン回転が安定するのを確認しながらエンジン回転調節レバーを“チョーク”から“低速”の位置に戻します。

運　転　操　作　の　し　か　た

除雪をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目を良くお読みになり除雪作業に取掛かってください。

⚠注意

- 除雪作業をするときは、手袋、帽子、防寒服、防寒靴などの防寒用の身支度をしてください。
- 本機の操作を行う場合には本機後方中央部に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。

取扱いのポイント

- 使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお申しつけください。

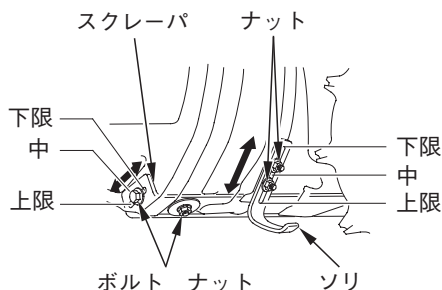
除雪作業は雪質など雪の状態に影響されます。最適な除雪作業をするため、必要に応じてソリ、スクレーパ、オーガ高さを調節してください。

1. ソリ、スクレーパの点検、調節

⚠警告

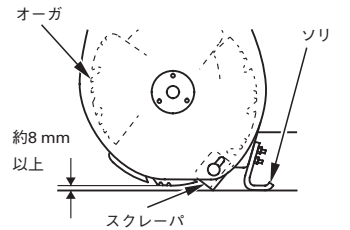
ソリ、スクレーパを調節するときは、必ずエンジンを停止し誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチ　キーを抜いてください。

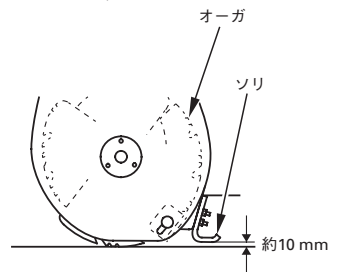
除雪する路面の雪の状態に合わせて、路面との高さを調節します。

1. 本機を平坦な場所に置き、エンジンを停止し、エンジン　スイッチ　キーを抜きます。
2. オーガ高さ調節レバーを操作して、除雪部を平坦路に接地させます。
3. 除雪する路面の状態に合わせて、ボルト、ナットをゆるめてソリとスクレーパの高さを調節します。(34頁参照)

☆ソリは左右同じ高さに調節してください。
☆調節後は必ずボルトおよびナットを確実に締付けてください。
☆段切作業用に調節した状態で路面出し作業を行わないでください。除雪部に悪影響をあたえます。

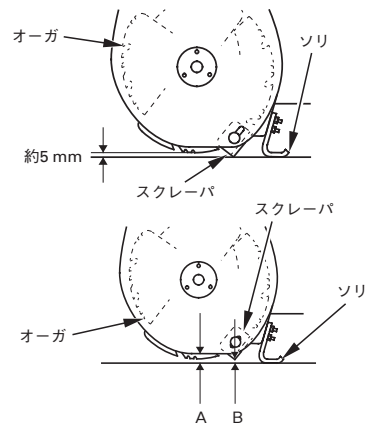
● ソリの調節はこんなときに行います

- 回転するオーガが路面に接触して困る場合:
- 砂利などが多い路面を除雪する場合:

オーガを路面から約８ｍｍ以上持ち上げた状態で、ソリを固定します。
砂利を巻き込まないために、雪を残して作業します。

- 屋根から落ちた固い雪などを崩したい場合:
- 締まった根雪などで、本機が食い込まず持ち上ってしまう場合:

オーガを路面に接地させた状態で、ソリを路面から約 10ｍｍ程度持ち上げた状態でソリを固定します。
＊この場合は、路面にオーガが接触して路面を傷つけたり石飛びのおそれがありますので、注意してご使用ください。
また、一般的な条件で使用する場合は、元に戻してから使用してください。

● スクレーパの調節はこんなときに行います

- 除雪した後に雪が残ってしまい、もっときれいに仕上げたい場合:

オーガを路面から約５ｍｍ程度持ち上げた状態で、スクレーパを路面に接地させ、スクレーパを固定します。
ソリはスクレーパに合わせて調整します。

標準位置(工場出荷状態)は、次のように調整されています。

A	4－8 mm
B	2－4 mm

２．オーガ高さの調節

1. 左右のハンドルを両手で持ち、しっかりささえます。
2. オーガ　ハウジング調節レバーを握り込みます。オーガ　ハウジングの高さは、無段階に調節できます。

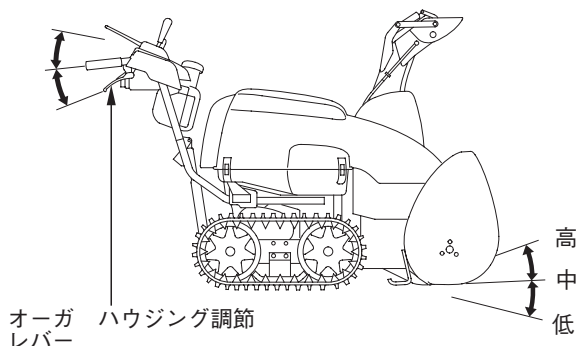
   上げるとき･･･ハンドルを押し下げます。

   下げるとき･･･ハンドルを上げます。
3. オーガ　ハウジング調節レバーを放すと、オーガ　ハウジングが固定されます。このとき、オーガ　ハウジングが確実にロックされていることを確認してくださ

高い：段切除雪、後進および移動の場合に使用してください。

中：一般除雪（通常はこの位置で除雪してください。）

低：固雪除雪（固い雪で除雪部が浮き上がりぎみのとき使用してください。）

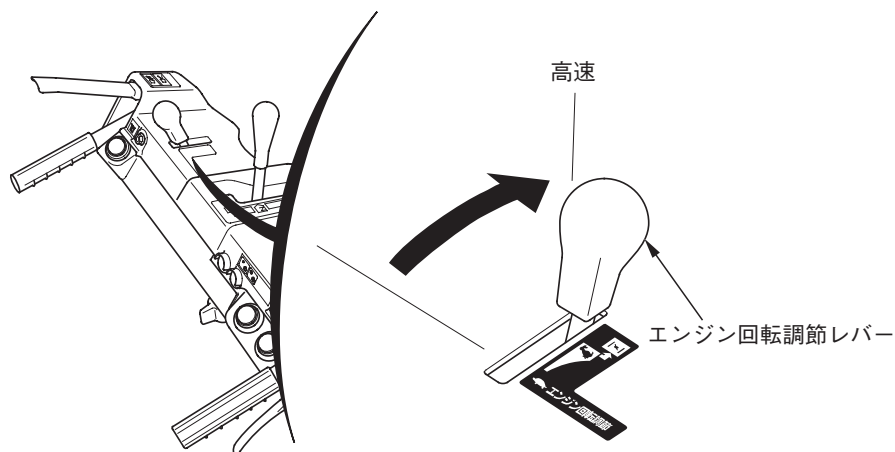
⚠注意

- オーガ　ハウジング調節レバーを“高”の位置から操作するときは、ハンドルをしっかりささえてください。ハンドルが本機の自重により急激に戻される場合があります。
- “固雪除雪”の位置は、固くなった雪の除雪の場合のみ使用してください。柔らかい状態の雪や不整地での使用は路面を傷付けたり、石飛びのおそれがあり危険です。また本機が破損したり、除雪部がいちじるしく消耗・損傷する場合があります。

☆低位置にするときは、オーガ　ハウジング調節レバーを握り込みハンドルを少し上げてから手を放すと簡単に固定ができます。
☆固雪除雪の為、オーガ位置をさらに低く調整したいときは、お買いあげ販売店にご相談ください。

3. 始動

始動については「エンジンのかけかた」30頁～32 頁を参照してください。

4. 運転操作

－1.前後進速度調節レバーが“N”(中立)の位置にあることを確認し、エンジン回転調節レバーを“高速”にあわせます。

－2. 投雪方向調節スイッチで投雪距離と方向を調節します。

投雪距離

遠くに投雪したいときは投雪方向調節スイッチを上向へ。

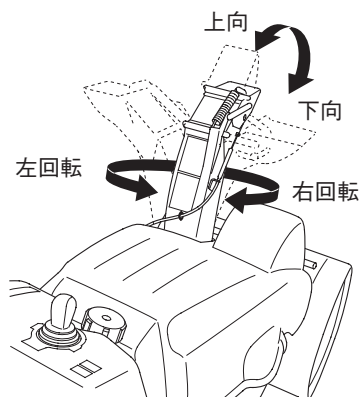
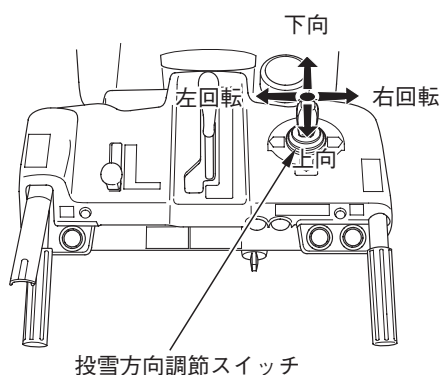
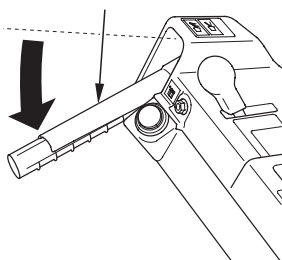
近くに投雪したいときは投雪方向調節スイッチを下向へ。

投雪方向

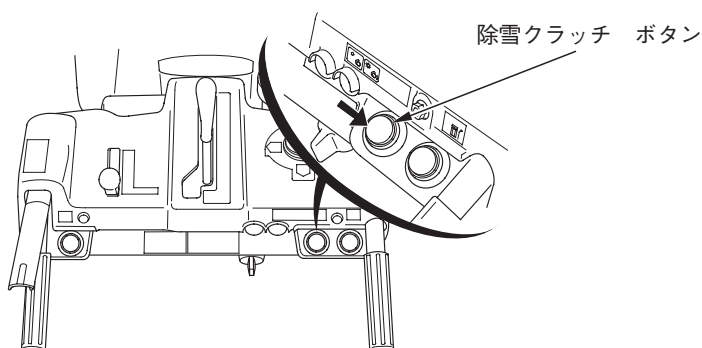
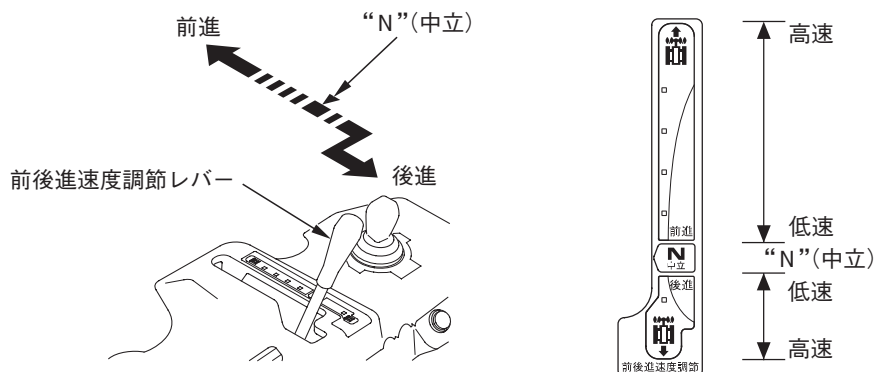
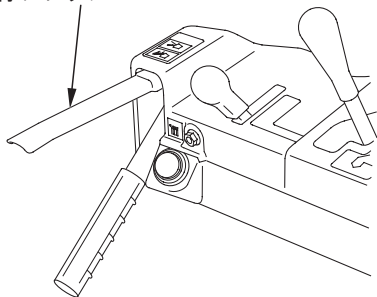
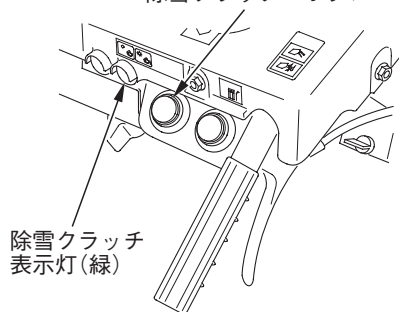
左側に投雪したいときは投雪方向調節スイッチを左回転へ。

右側に投雪したいときは投雪方向調節スイッチを右回転へ。

⚠注意

投雪距離や方向を変えるときには、人や建物などに注意して行ってください。

－3. 前後進速度調節レバーが"N"(中立)の位置にあることを確認し、走行クラッチレバーを握ります。

－4. 除雪クラッチ　ボタンを押すと、除雪クラッチ表示灯(緑)が点灯し、除雪部が回転します。走行クラッチ　レバーを握っているときは、ボタンは押し続ける必要はありません。ボタンを再度押すとオーガとブロアが停止します。(走行クラッチ　レバーと除雪クラッチ　ボタンの連動操作)

⚠注意

除雪クラッチ　ボタンおよび走行クラッチ　レバーを操作すると本機が作動します。レバーおよびボタンを操作するときには周囲の安全を十分に確認してください。

－5. 雪質、積雪量に合わせて、前後進速度調節レバーの位置を選び速度を設定し除雪作業をします。

−6. 走行クラッチ　レバーから手を放すと除雪クラッチ表示灯(緑)が消灯して除雪部の回転が停止し、同時に走行も停止します。

- 移動のときは、除雪クラッチ　ボタンを「切」にしてください。

5.旋回のしかた

走行中に旋回ボタンを押すことで本機の進行方向を変えることができます。旋回は、前後進速度調節レバーの位置と旋回ボタンの押しかたにより、通常の旋回と超信地旋回(その場で方向旋回)ができます。

- **通常の旋回**

  右旋回‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥右旋回ボタンのみを押します。

  左旋回‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥左旋回ボタンのみを押します。

- **超信地旋回**

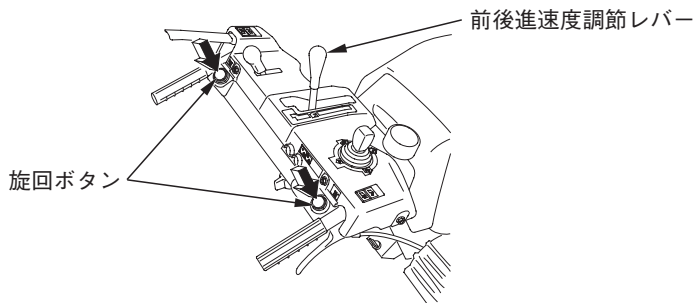
  前進側低速域で走行中に、旋回したい方の旋回ボタンを押し続けると超信地旋回(その場で方向旋回)ができます。

6.走行モータの保護機能について

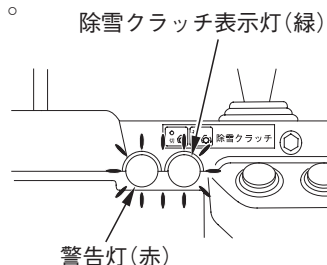
- 本機はモータで走行する機構になっています。本機の使用条件によってはモータに大きな負荷が加わり、保護回路の働きで警告灯(赤)が点灯、点滅し、速度が低下したり、走行が停止する場合があります。
  この場合は一度エンジン　スイッチを**“停止”**の位置にし、再度エンジンを始動してください。このとき警告灯(赤)が点灯、点滅しなければ正常な状態に復帰しましたのでそのまま作業を行ってください。
  エンジンが再始動できなかったり、エンジンを始動しても警告灯(赤)が点灯、点滅する場合は故障ですので、クローラのホイール　ピンを抜くなどして、本機を安全な場所に移動して、お買いあげ販売店で点検、修理を受けてください。
  ピンの抜き方は74頁を参照してください。

7.バッテリ走行システム

バッテリ走行システムは、エンジンが始動できないときの移動時にのみ操作をしてください。

－１．前後進速度調節レバーを**“N”(中立)**の位置にします。
－２．走行クラッチ　レバーから手を放します。
－３．エンジン　スイッチを**“運転”**の位置にします。
－４．旋回ボタンを左右同時に約３秒間押し続けます。

－５．約３秒間押し続けると制御警告灯（赤）と表示灯（橙）が点滅します。点滅したら、走行クラッチ　レバーを握り“**走行**”にします。

点滅が始まってから５秒以内に操作入力がなければ、警告灯（赤）と除雪クラッチ表示灯（緑）が点灯し、自動的にバッテリ走行システムが終了してバッテリでの走行ができなくなります。

この場合、再度エンジン　スイッチを“**停止**”の位置にしてから再起動してください。

－６．前後進速度調節レバーを操作し、適切な車速で走行します。

－７．走行後はエンジン　スイッチ　キーを“**停止**”の位置にします。

取扱いのポイント

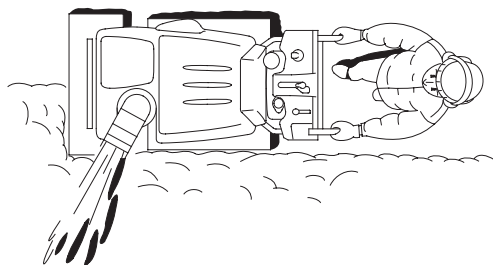
- バッテリ走行システムは、エンジンが始動できないときの移動時にのみ操作をしてください。
- バッテリ走行システムはバッテリを消費させるため、通常満充電状態で通算３分以内を目安とし、それ以上もしくは頻繁に操作するとバッテリがあがり、エンジンの始動および走行ができなくなります。
- バッテリ走行後は、必ずエンジン　スイッチを“停止”の位置にしてください。エンジン　スイッチを“運転”のままで放置するとバッテリが放電し、思わぬ事故を招くことがあります。
- 必要によりバッテリを充電してください。（65頁参照）
- 次の条件では走行しない場合があります。走行しない場合はホイール　ピンを取外して移動してください。（74頁参照）
  - ・バッテリが放電している場合。
  - ・走行モータなどに不具合がある場合。
  - ・ホイール　ピンが折損または外れている場合。
  - ・クローラが脱輪または損傷している場合。
  - ・５秒以上放置となった場合。（バッテリ走行時のみ）
  - ・コントローラの故障。

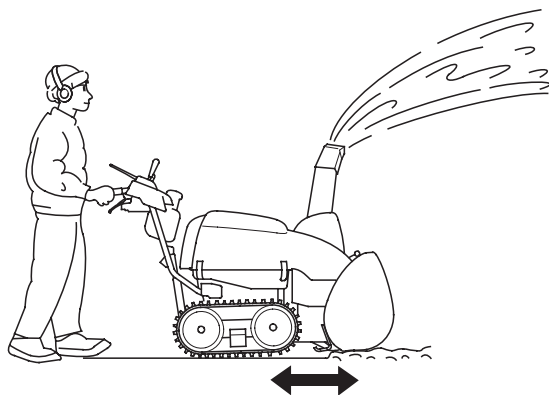
8.除雪のしかた

除雪作業はエンジン回転調節レバーを“**高速**”の位置にし、エンジンの回転を落さず行うことが重要です。前後進速度調節レバーは積雪の少ないときに“**高速**”、そして積雪の多いときは“**低速**”に調節します。

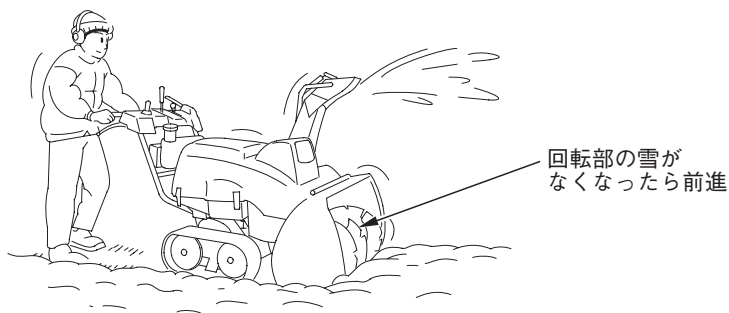
速度が速すぎると本機の前方に雪があふれたり、エンジン回転が著しく落ち、本機の投雪性能が低下するおそれがあります。

- **除雪幅を狭くする方法**

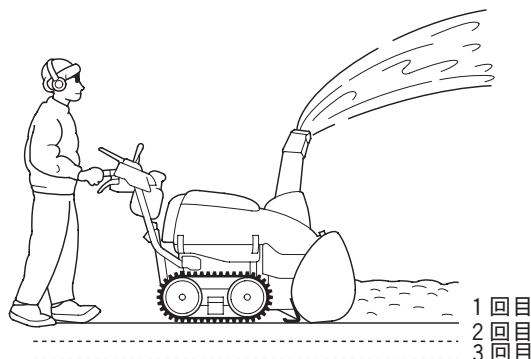
深い雪や重くなった雪の場合は、遅い速度で除雪してください。またこのようなときは除雪部にかかる雪幅を狭くして行ってください。

- **前後進除雪の方法**

固くなった雪などで除雪部が乗り上げるような場合には、遅い速度で除雪してください。1回で除雪しきれない場合には、“**前、後進**”をくり返して除雪してください。

●断続除雪の方法

深い雪や、重い雪の除雪作業時にエンジン回転が低下する場合には、断続的に除雪を行ってください。

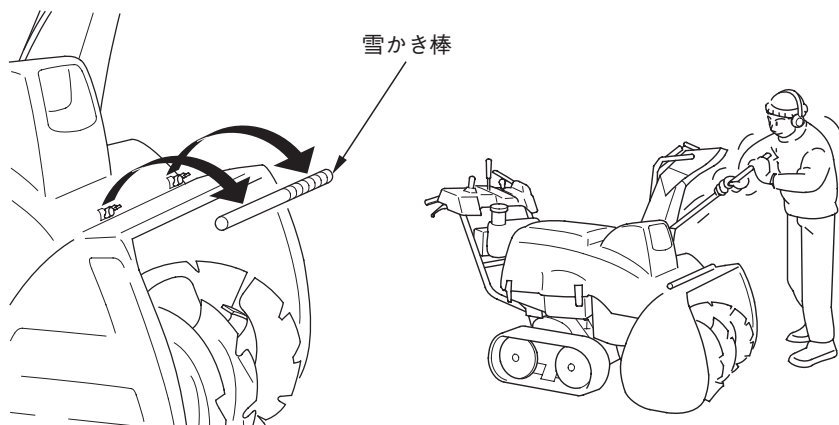
1. エンジン回転が復帰するまで前後進速度調節レバーを"N"(中立)の位置に操作してください。(この時除雪クラッチ　ボタンの除雪クラッチ表示灯(緑)を点灯させ、除雪部が回転したままにしておきます。)
2. 除雪部の雪がなくなり、エンジン回転が復帰したら前後進速度調節レバーを前進側に操作してください。(速度は低速にしておきます。)
3. 再びエンジン回転が低下する場合には、1.~2.を繰り返して行います。

●段切除雪の方法

積雪量が多く、除雪部よりも雪が多い場合などには段階的に除雪を行ってください。

1. のぼるときは、
   - オーガ　ハウジングを上げます。
2. 食い込ませるときは、
   - オーガ　ハウジングを下げます。
   - 必要に応じて、ソリの位置を調節します。(33頁参照)

- 投雪口に詰まった雪の除去

⚠警告

除雪部および投雪口に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチ　キーを抜きます。各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。
エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。

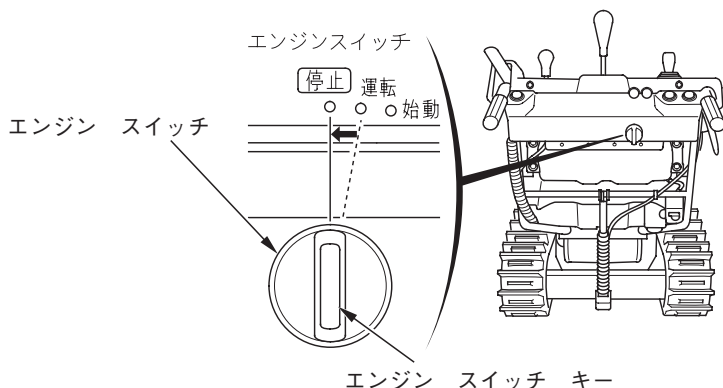
1. 除雪作業中、投雪口に雪が詰まったときは、雪かき棒で除去します。

2. 雪かき棒は使用後、必ず元の位置に戻してください。

除　雪　機　の　止　め　か　た

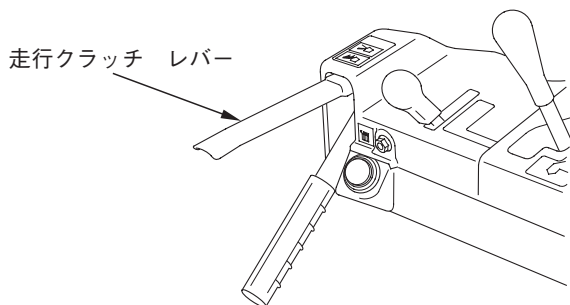
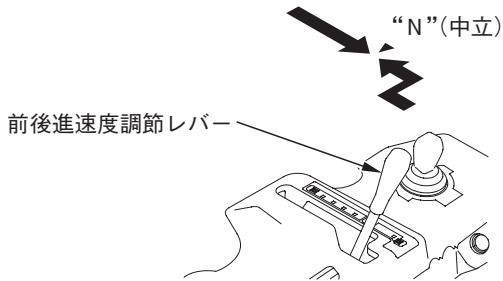
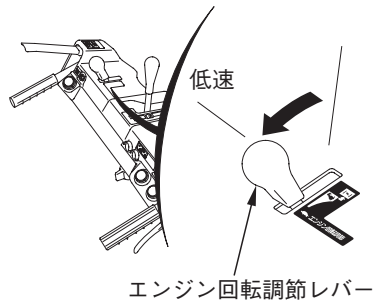
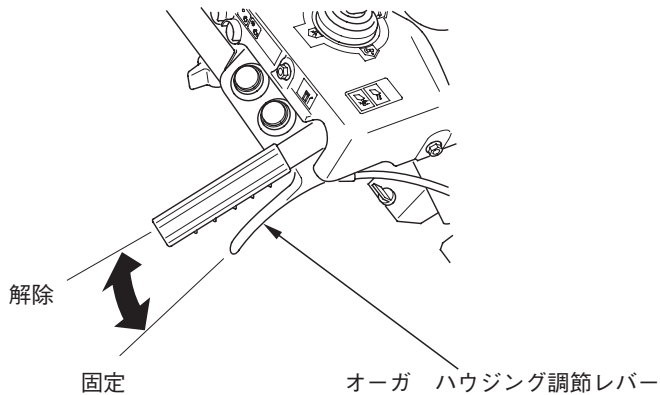
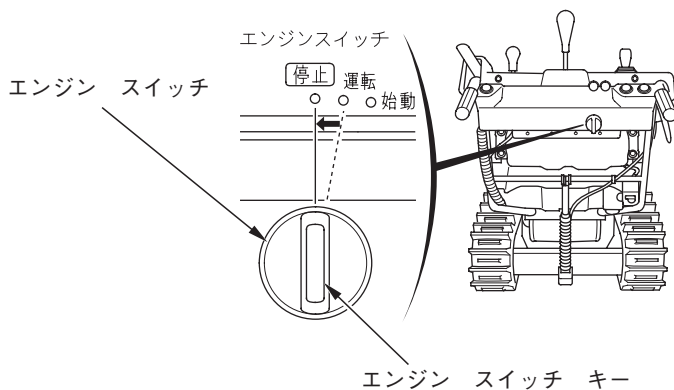
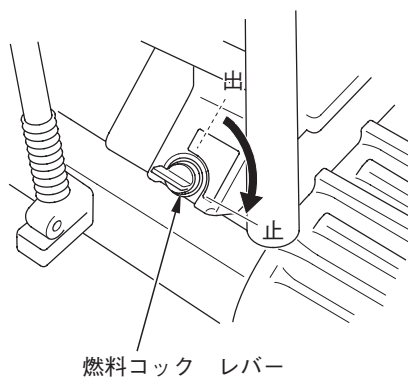
⚠警告

平坦な場所に駐車してください。傾斜地に駐車すると、本機が空走し事故の原因になります。

● 緊急にエンジンを停止する場合

エンジン　スイッチを“停止”の位置にし、エンジン　スイッチ　キーを抜きます。

本機を緊急停止させたのち、再び始動する場合は前後進速度調節レバーを“N”(中立)の位置にしてください。

● 通常停止の場合

1. 走行クラッチ　レバーから手を放します。
   走行が停止し、数秒後に除雪部の回転が停止します。

2. 前後進速度調節レバーを“N”(中立)の位置にします。

3. エンジン回転調節レバーを“低速”にします。

4. オーガ　ハウジング調節レバーを操作して除雪部を完全に路面へ接地させます。

5. エンジン　スイッチを“停止”の位置にし、エンジン　スイッチ　キーを抜きます。

6. 燃料コック　レバーを“止”の位置にします。

取扱いのポイント

作業後は、各部の雪を取除いて格納してください。雪が付いたまま放置すると凍結し、次の使用に支障があるばかりでなく故障の原因にもなります。

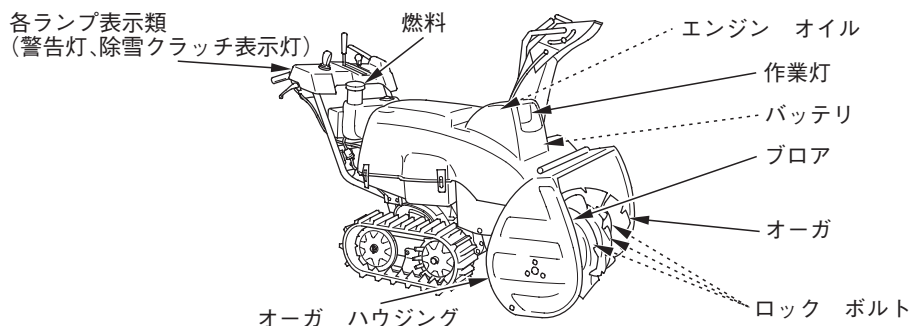
定 期 手 入 れ を 行 い ま し ょ う

日常点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに自分自身で行ってください。

- エンジン　オイル……規定量入っているか。漏れはないか。
- 燃料……残量
- 各部の締付け……ハンドルのガタはないか。
- バッテリ……バッテリ液の点検(28頁参照)端子のゆるみ(59頁参照)
- ソリ……ソリの高さ調整(33頁参照)
- 投雪方向調節スイッチ、オーガ　ハウジング調節レバー……作動の確認。
- オーガ、ロック　ボルト、ブロア、オーガ　ハウジング等の損傷やゆるみについては、特に点検を行ってください。
- 前回の作業で異常箇所はなかったか。
- 運転中に警告灯(赤)が点灯、点滅し、エンジン再始動後も消灯しない場合、また、その他異常を感じたら、ただちにお買い上げ販売店へお申しつけください。(68頁参照)

取扱いのポイント

- トップ　カバーを取外したまま屋外に放置しないでください。故障の原因となります。
- 本機を洗車する場合は、直接電装部品に被水しないように行ってください。被水すると、浸水し故障の原因となります。

定期点検

お買いあげいただきましたHonda除雪機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

点検時期(1) 点検項目		作業前点検	1ケ月目 または 初回20時間運転目	シーズン毎 除雪時期初め	シーズン毎 除雪時期終わり	4年毎
エンジン　オイル	点検、補給	○				
	交換		○	○		
オーガ　トランスミッション　オイル	点検、補給			○(2)		
オーガ　ベベルギヤ　オイル	点検、補給					○(2)
走行MIオイル	点検、補給					○(2)
バッテリ液	量	○				
	比重点検			○(2)		
点火プラグ	点検、調整			○		
	交換					○(250時間運転毎)
ソリ、スクレーパ	点検、調整	○		○		
クローラ	点検、調整			○		
オーガ／ブロア、ロック　ボルト	点検	○				
各部締め付け点検	点検	○				
燃料ろ過カップ	清掃				○	
燃料タンク、キャブレータ	燃料抜き、水抜き				○	
ウォータ　セパレータ	点検、 必要により清掃			○(2)		
格納時各部防錆	塗油				○	
シュータ　ガイド　ケーブル	点検、調整			○(2)		
スロットル　ケーブル	点検、調整			○(2)		
オーガ　ハウジング調節レバー	動作、点検、調整			○(2)		
オーガ　ピン	交換			○(2)		
ブロア　ピン	交換			○(2)		
ACGベルト	点検、調整			○(2)(4)		
各種スイッチの作動	点検	○				
アイドル回転	点検、調整			○(2)		
吸入、排気弁隙間	点検、調整			○(2)		
燃焼室	清掃	250時間運転毎(2)(3)				
燃料タンク	清掃					○(2)
燃料チューブ	点検			○(2)		
	交換					○(2)

(1)点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。

(2)適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店またはサービス店で実施してください。

(3)表示時間を経過後すみやかに実施してください。

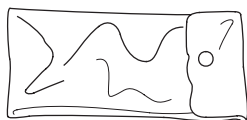
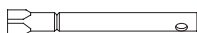
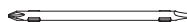
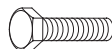
(4)ベルトに亀裂、異常摩耗が入っていないことを確認し、異常がある場合は交換してください。

点　検　・　整　備　の　し　か　た

⚠警告

点検・整備は必ず平坦な場所でエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチ　キーを抜いて行ってください。

携帯工具と付属部品

工具は点検・整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。
(　　)は、個数を表示しています。

⚠警告

- エンジン停止直後はエンジン本体やオイルの温度が高くなっています。十分冷えてからオイル交換を行ってください。やけどをするおそれがあります。
- 補給、交換時にこぼれたオイルは布きれなどでふき取ってください。エンジン高温部、マフラ等に付着すると火災の原因となります。

エンジン　オイルの交換

エンジン　オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回：１ケ月目または20時間運転目

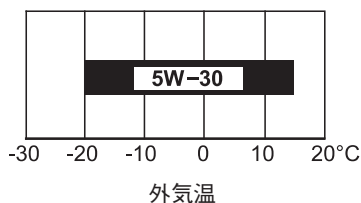
以後：年１回除雪時期の初め

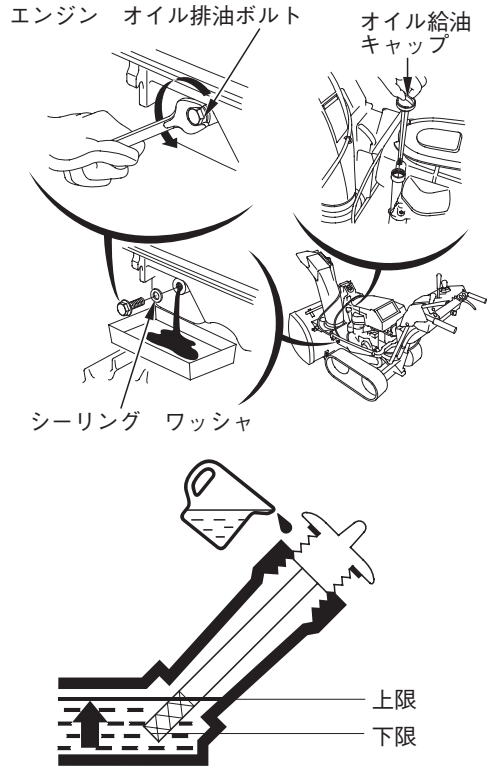
《推奨オイル》

（４ストローク　ガソリン　エンジン　オイル）

Honda純正汎用寒冷地オイル（SAE 5W-30）またはAPI分類SE級以上のSAE 5W-30エンジン　オイルをご使用ください。

《オイル容量》　1.1 ℓ

エンジン　オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

《交換のしかた》

1. オーガ　ハウジング調節レバーを操作し、本機を水平にします。
2. トップ　カバーを取外します。(58頁参照)
3. オイル受けを用意し、セットしてください。
4. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。(17 mmスパナ使用)
5. オイルが抜けたら新しいシーリング　ワッシャを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。
6. 新しいエンジン　オイルを上限まで注入します。
7. 注入後、オイル給油キャップを確実に締付けます。

取扱いのポイント

- 交換後のエンジン　オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。
- 外したシーリング　ワッシャを再使用するとオイルがにじみ出ることがあります。新しいシーリング　ワッシャを使用してください。
- 補給、交換時にこぼれたオイルは、布きれなどでふき取ってください。

点火プラグの点検、調整、交換

⚠注意

エンジン停止直後のマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《点検･調整時期》

年1回除雪時期の初め

《交換時期》

4年毎または250時間運転毎

清掃のしかた

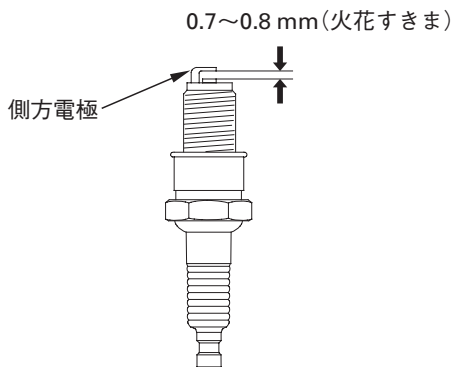
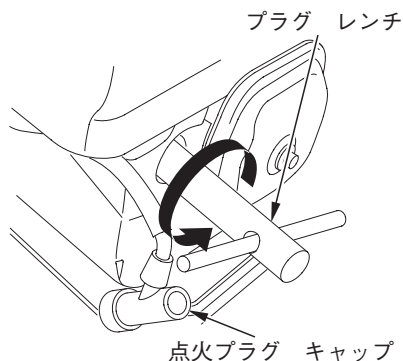
1. トップ　カバーを取外します。（ 58頁参照）
2. 点火プラグ　キャップを取外してください。
3. プラグ　レンチ（同梱工具）で点火プラグを取外します。
4. 点火プラグの清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。プラグ　クリーナが無いときは、針金かワイヤ　ブラシで汚れを落としてください。

《調整》

調整のしかた

側方電極を曲げて火花すき間を0.7～0.8 mmに調整します。

《指定プラグ》

BPR5ES(NGK)

取扱いのポイント

- 故障の原因となるので指定以外の点火プラグを使用しないでください。
  点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽く一杯までねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締付けてください。
- 点検、調整後は点火プラグ　キャップを確実に取付てください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

クローラの張り点検、調整

クローラの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

《点検時期》

年1回除雪時期の初め

点検のしかた

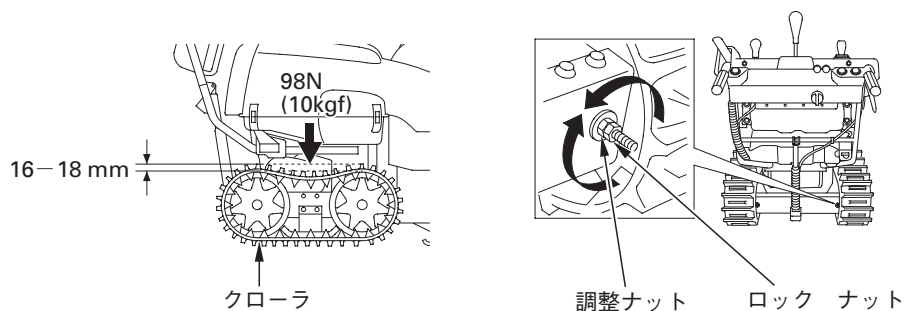
クローラ中央部を強く(約 98 N(10 kgf))押したときたるみが適正寸法になっているか点検します。

適正寸法：**16－18 mm**

調整のしかた

1. ロック　ナットをゆるめて、調整ナットを回して調整してください。(12 mmスパナ2本使用)
   右に回すとクローラは張ります。
   左に回すとクローラはゆるみます。
2. 適正寸法になるように調整してください。
3. 調整後確実にロック　ナットを締付けてください。
4. 左右同じ方法で点検し、均等に調整してください。

取扱いのポイント

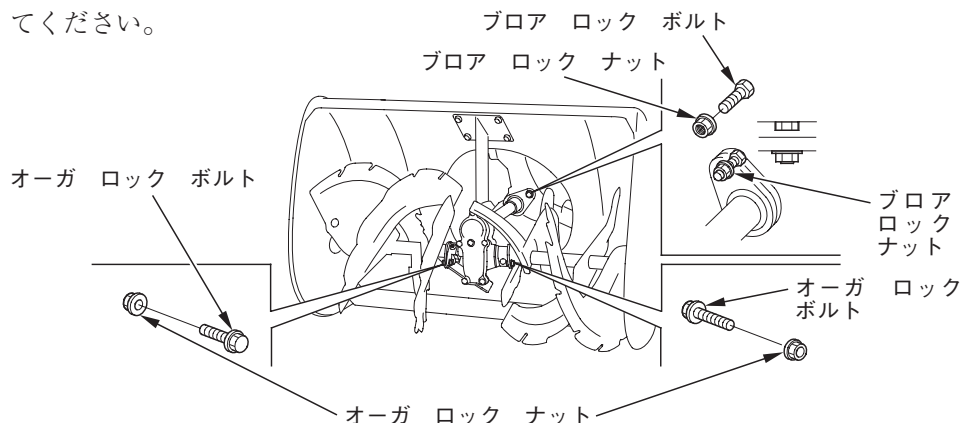
クローラが凍結しているときは正しい張り調整ができません。
必ず凍結を取り除いてから調整してください。

除雪部の点検

オーガ／ブロア　ロック　ボルト、オーガ　ハウジング、ブロアにゆるみや損傷がないことを点検します。

オーガ／ブロアのロック　ボルトのゆるみや折れを点検します。

もし折れている場合は下記の手順で同梱されているロック　ボルトと交換してください。

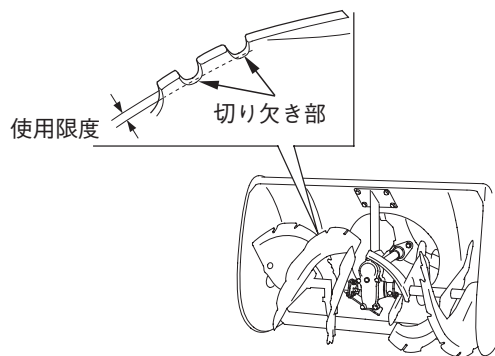
ロック　ボルトの交換方法

1. 本機を平坦な場所に水平に止めてください。
2. 前後進速度調節レバーを“**N**”(**中立**)にしてください。
3. オーガ　ハウジング調節レバーで本機を水平にしてください。
4. エンジン　スイッチを“**停止**”の位置にし、エンジン　スイッチ　キーを抜きます。
5. 各回転部が停止していることを確認してください。
6. オーガ、ブロアの凍結または異物(石、棒、針金など)を取除きます。
7. オーガ、オーガ　ハウジング、ブロアに損傷のないことを点検してください。
8. 折れたロック　ボルトを取除き、新しいロック　ボルトと交換し、確実に締付けてください。

☆オーガ／ブロア　ロック　ボルトはそれぞれスペア部品が同梱されています。
　使用した場合は、万一に備えて補充してください。

☆オーガとブロアのロック　ボルトとナットは同一のものです。

☆新しいロック ボルト、ナットはお買いあげ販売店にご注文ください。

オーガ、ブロアの交換

- オーガは路面や石との接触により磨耗します。
  磨耗したオーガでは除雪性能が悪化しますので、新しい部品に交換してください。

- オーガ、ブロアが変形した場合には、外力を加えて修正しないでください。割れ目が生じ、思わぬ事故の原因となることがあります。
- 変形したオーガ、ブロアが回転中に干渉する場合や、除雪性能や投雪距離が短くなったときは、新しい部品に交換してください。
- オーガ、ブロアの交換は、お買いあげ販売店へお申しつけください。

バッテリ

《端子の手入れ》

端子のゆるみ、腐食は接触不良、作業灯、警告灯、除雪クラッチ表示灯のバルブ切れの原因となります。ゆるんでいるときは締めつけてください。端子に白い粉がついているときは、バッテリを取外しぬるま湯で清掃してください。端子部が腐食している場合は、ワイヤ　ブラシかサンド　ペーパでみがきます。清掃がおわったら、端子接続後グリースを塗布してください。

⚠警告

- バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖側から外してください。工具の接触などでショートする場合があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。

取扱いのポイント

- 長時間使用しない場合には、⊖バッテリ端子を外しておいてください。
  長期間保管中は、6 か月に 1 度補充電を行ってください。(65 頁参照)
- バッテリ補充液(蒸留水)を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐食させる原因となります。上限(UPPER LEVEL)以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼしたときには、必ず水洗いをしてください。

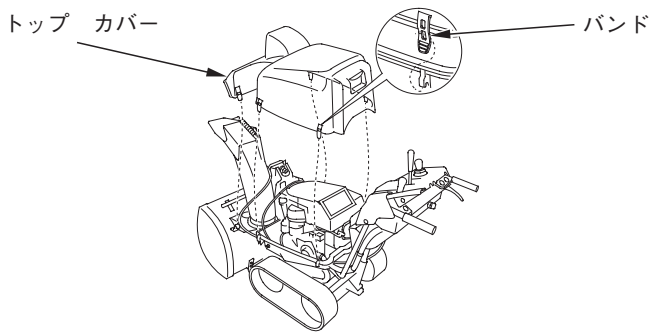
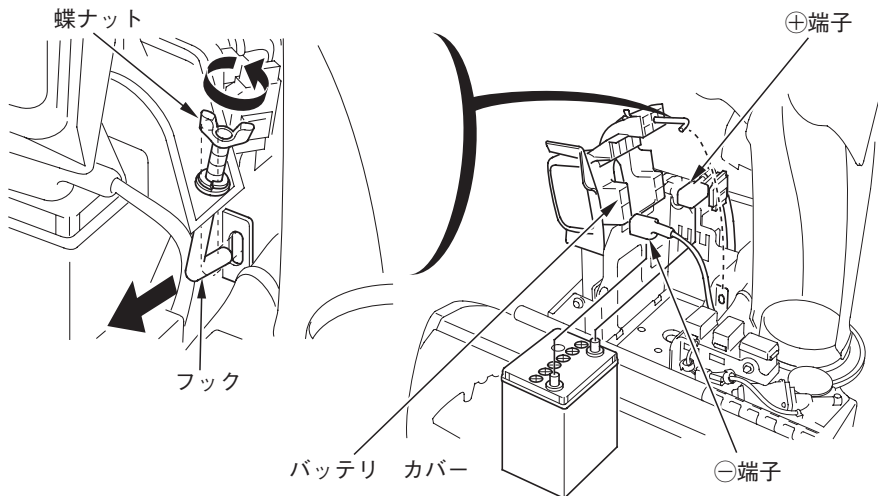
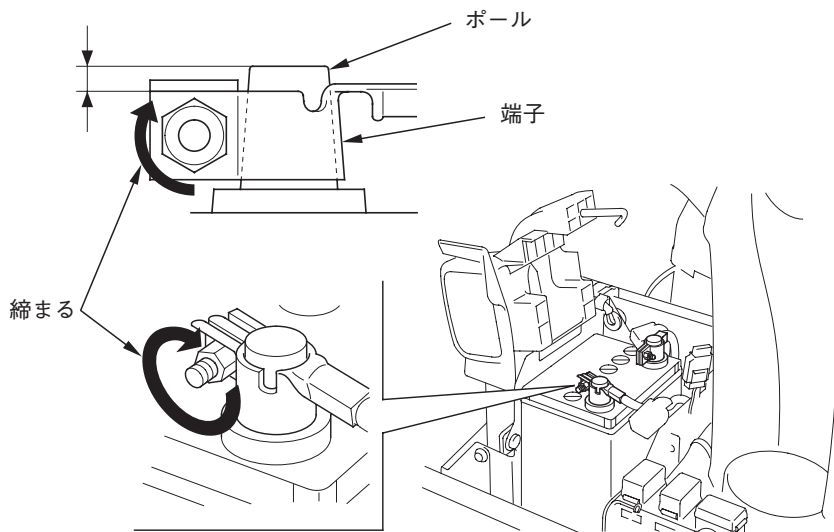
バッテリの取外し・取付け

1. 投雪口を前向きに操作します。

2. エンジン　スイッチを**“停止”**の位置にし、エンジン　スイッチ　キーを抜きます。

3. トップ　カバーのバンドを外し、トップ　カバーを持ち上げて取外します。

⚠注意

トップ　カバーを取外した状態では絶対にエンジンを始動しないでください。

4. 蝶ナットをゆるめてフックを外し、バッテリ　カバーを下図の位置にします。

5. バッテリ㊀端子の接続を外します。
6. バッテリ㊉端子の接続を外します。
7. バッテリを持ち上げて取外します。
8. 取付けるときは、逆の手順で取付けます。
   ポールの頭が端子より出ている位置まで端子を押し込んでからナットを締め、端子を確実に接続してください。
   バッテリ　カバーのフックは前方から通してください。

取扱いのポイント

- バッテリ　コードの取外しは必ず上の手順で行い、取付けは逆の手順で行ってください。誤るとショートする場合があります。
- 端子の押し込みが浅いと端子が外れるおそれがあります。

ヒューズについて

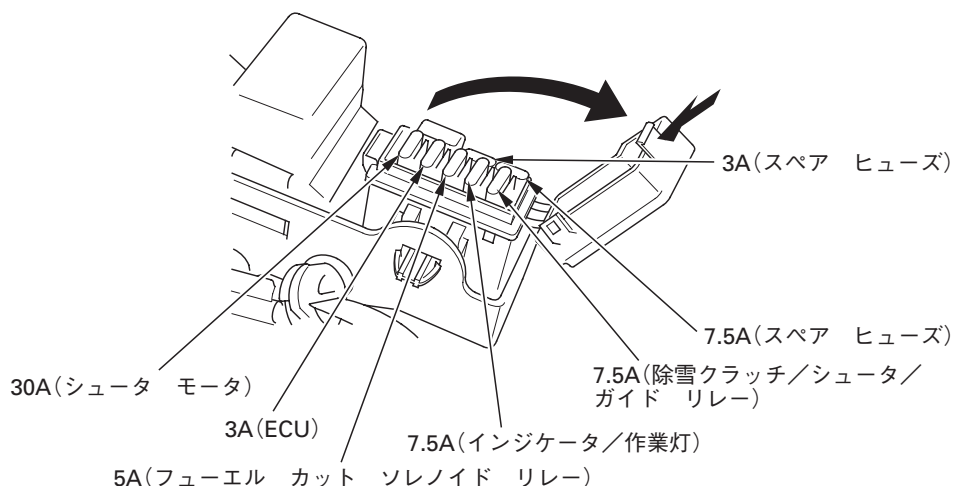
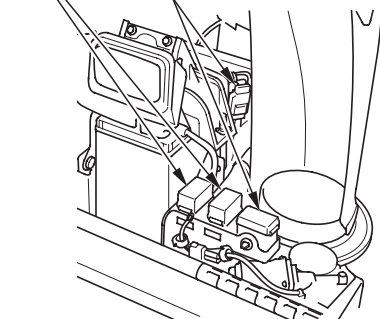
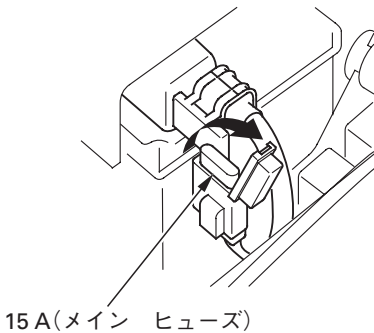
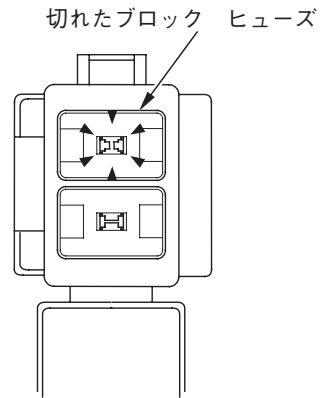
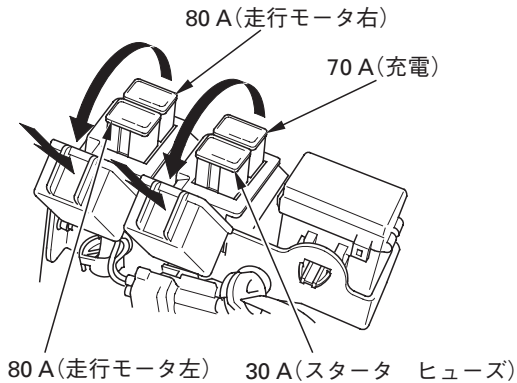
ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れるおそれがあります。

取扱いのポイント

指定ヒューズ以外の物、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線などを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。

《交換のしかた》

1. トップ　カバーを取外してください。(58頁参照)
2. 切れたヒューズを新品のヒューズと交換してください。

☆指定ヒューズは、お買いあげ販売店にご注文ください。

3. ブロック　ヒューズの交換は、お買い上げ販売店でお申しつけください。

各部が作動しないときは

- ヒューズに異常がないか確認してください。
- ヒューズに異常がない場合は、お買いあげ販売店で、点検・修理を受けてください。

各部の作動点検

年１回除雪時期の初めに、次の点検を行ってください。

・エンジンの始動、停止

・レバー類の作動

・スイッチ類の作動

・その他の可動部分の作動

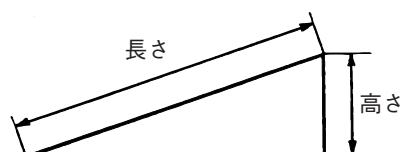
運　搬　す　る　と　き　は

アユミ板を使ってのトラックへの積み降ろし

⚠警告

車への積み降ろしをする場合は、必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。

《積み降ろしをする前に》

1. 積み降ろしは平坦な場所で行ってください。
2. 使用するアユミ板は本機の重量＋作業者の体重に耐えられる物を使用してください。
   本機の総重量： 約163 kg
3. 下の表を目安に傾斜角度が15度以下になるようなアユミ板を選んでください。

アユミ板の長さ	2.5 m	3.0 m	3.5 m
地面からアユミ板までの高さ	50 cm	60 cm	70 cm

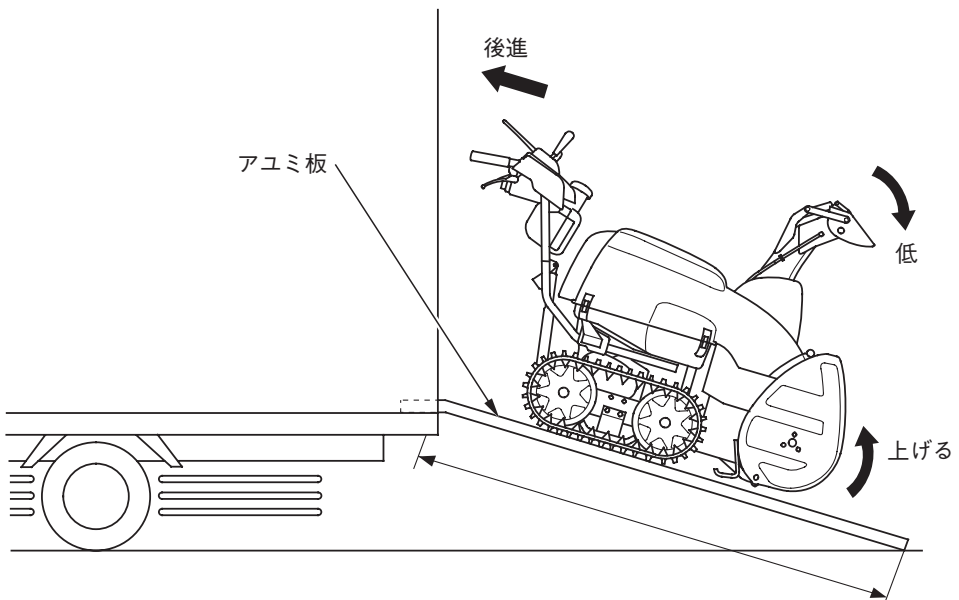
4. ほろ付のトラックでは、あらかじめ除雪機を格納できる高さがあるか確認してください。
5. 燃料が十分あるか確認してください。“Ｅ”（空）に近いとエンストしてしまうことがあります。

《手順》

1. アユミ板の幅をクローラの幅に合わせます。
2. エンジンを始動し、オーガ高さ調節レバーで、オーガを積み降ろしに必要な高さまで上げます。
3. 投雪方向調節スイッチで投雪口をいっぱいに下げます。

4. 前後進速度調節レバーを後進に入れ十分に車速を落として、後進でアユミ板を登ります。
5. 除雪部がほろなどに当たらないように注意しながら本機をトラックの荷台に乗せてください。

⚠警告

- アユミ板の上を移動途中に、旋回ボタンによる操作を絶対に行わないでください。アユミ板から本機が落ちる場合があります。
- アユミ板の上を移動途中での停止は極力さけてください。万一停止した場合は前後進速度調節レバーを"N"(中立)の位置(走行クラッチ　レバーを握っても本機が動かない位置)にして再始動してください。

長期間使用しないときの手入れ

除雪シーズンが終わり長期間格納するときは、次のシーズンも快適にお使いいただくために次の手入れを必ず行ってください。

1. 保管するときは、オーガ　ハウジングを接地させ、エンジン　スイッチ　キーを抜いてください。
2. 燃料タンク、キャブレータの燃料を抜きます。

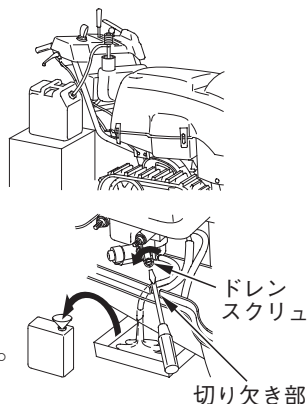
30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータの燃料を抜いてください。古くなった燃料は故障の原因となります。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

- 火気を近づけないでください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから作業を行ってください。静電気の放電による火花により気化した燃料に引火し、やけどを負うおそれがあります。本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ガソリンをふき取った布切れなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。

《抜きかた》

－1. 燃料タンク内の燃料を抜きます。
－2. 燃料コック　レバーを**“出”**に合わせます。
－3. トップ　カバーを取外します。(58 頁参照)
－4. キャブレータ(気化器)のドレン　スクリュをアンダー　カバーの切り欠き部からマイナス　ドライバで回して燃料を容器に受けます。
－5. 完全に抜けたらドレン　スクリュを確実に締めます。
－6. 燃料コック　レバーを**“止”**にします。

3. バッテリの手入れ
保管時は、バッテリの㊀端子を外しておいてください。(58頁参照)
長期間使用しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は放電しますので6ヵ月に1度および除雪時期の初めと、終わりにバッテリを外して(57～59頁参照)12 V用充電器を使用し、補充電を行ってください。別売の12 V用充電器はお買いあげ販売店へお申しつけください。
4. ボルト、ナットの破損、腐食、ゆるみの点検。(55頁参照)
5. バッテリ液面の点検。(28頁参照)

⚠警告

- バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。
  バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。
  破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは㊀側から外してください。工具の接触などでショートする場合があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。

6. 保管時の給油箇所

水気、汚れを拭きとり、乾燥後に回転部および摺動部にオイルまたはグリースを注油してください。

：オイル（エンジン　オイル5 W-30、10 W-30相当品）

グリース ：グリース（低温用）

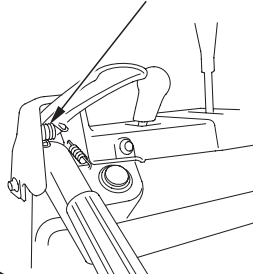
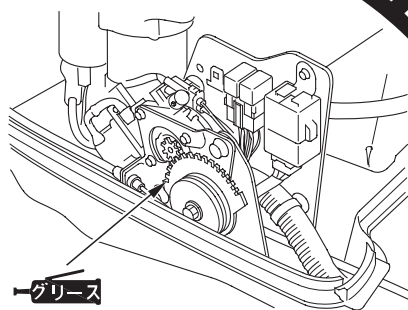
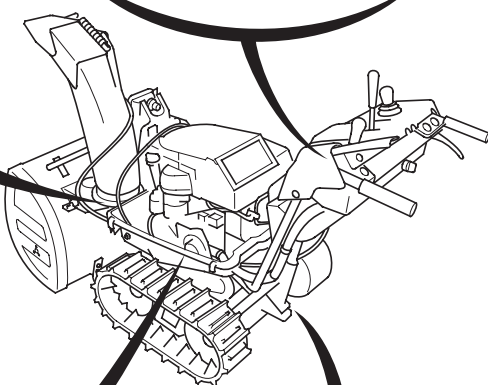
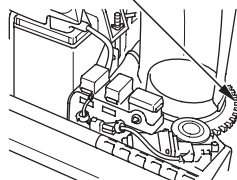
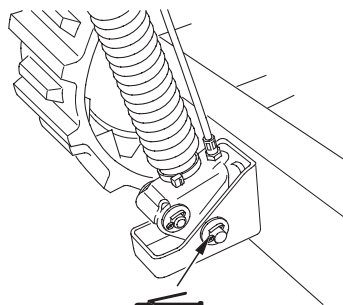
グリース
前後進速度調節レバーの摺動部および支点部
注意：グリースが垂れないように塗り過ぎに注意してください。

グリース
スロットル　レバーの摺動部および支点部

グリース
各リンクの支点部

オイル
オーガ

グリース
オーガ　ハウジング調節レバーの摺動部および支点部

グリース
走行クラッチ　レバーの摺動部および支点部
注意:グリースが垂れないように塗り過ぎに
注意してください。
グリース
シュータ　ギヤ
グリース
または
オイル
投雪口回転部
グリース
メイン　フレーム支点部

故　障　の　と　き　は

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店へお申しつけください。

始動しないときは、次の点を確かめましょう。

1. 始動方法は、取扱説明書どおりですか？（30～32頁参照）
2. 燃料はありますか？（25頁参照）
3. 燃料コック　レバーは“出”の位置になっていますか？（16頁参照）
4. エンジン　オイルは規定量ありますか？（27頁参照）
5. 点火プラグ　キャップは確実に取付けられていますか？（53頁参照）
   点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？
   （53頁参照）
   - 点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。
   - 運転中に警告灯（赤）が点灯、点滅し、エンジン再始動後も消灯しない場合は、ただちにお買いあげ販売店で点検を受けてください。

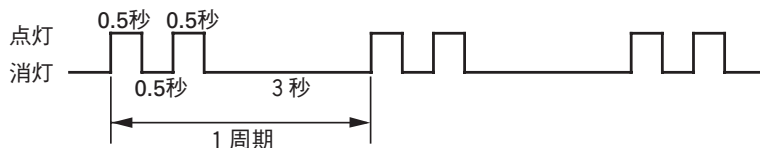
少し時間をおいてもう一度確めましょう

故障診断機能

故障の場合

運転中に故障が発生した場合、警告灯（赤）が故障内容にあった点滅回数を繰り返し点滅表示し、故障中であれば、エンジン　スイッチを**“停止”**の位置にし、再度エンジン　スイッチを**“運転”**の位置にすると故障内容にあった点滅回数を繰返し点滅表示します。

- 警告灯の点滅周期は0.5秒点灯、0.5秒消灯。故障回数点滅後に３秒消灯時間があり再度の繰り返しをします。

例、　２回点滅の場合：　0.5秒点灯→0.5秒消灯→0.5秒点灯して３秒消灯し繰り返します。

警告灯(赤)の点灯、もしくは点滅回数を確認してください。

故障診断表

<table>
<tr><th>警告灯(赤)点滅回数</th><th>内容分類</th><th>原因</th><th>処置</th></tr>
<tr><td>消灯</td><td>ランプ切れまたはECU故障</td><td>CPU故障</td><td rowspan="14">お買いあげ販売店へ
お申しつけください。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2回</td><td>車速アングル　センサ故障</td><td>車速アングル　センサの断線または短絡、初期設定不良</td></tr>
<tr><td>ECU故障</td><td>EEPROMの故障</td></tr>
<tr><td>4回</td><td>右側　ドライバ故障</td><td>ドライバ内部異常</td></tr>
<tr><td>5回</td><td>右側モータ回転センサ故障</td><td>U·V·W相　信号異常</td></tr>
<tr><td>6回</td><td>左側　ドライバ故障</td><td>ドライバ内部異常</td></tr>
<tr><td>7回</td><td>左側モータ回転センサ故障</td><td>U·V·W相　信号異常</td></tr>
<tr><td>8回</td><td>右側　ドライバ異常</td><td rowspan="2">ドライバ過熱</td></tr>
<tr><td>9回</td><td>左側　ドライバ異常</td></tr>
<tr><td>10回</td><td>電源異常</td><td>バッテリ故障、ACG故障、バッテリ　ターミナルの外れ</td></tr>
<tr><td>11回</td><td>電磁ブレーキ故障</td><td>断線、短絡、カプラ外れ</td></tr>
<tr><td>12回</td><td>モータ温度センサ故障</td><td>断線、短絡</td></tr>
<tr><td>13回</td><td>モータ異常</td><td>モータ過熱</td><td>5分間エンジン停止後再始動＊</td></tr>
<tr><td>14回</td><td>同期制御エラー</td><td>ドライバ故障</td><td rowspan="2">お買いあげ販売店へ
お申しつけください。</td></tr>
<tr><td>常時点灯</td><td>エンジン　ストール時
(クランキング時)</td><td>パルス断線</td></tr>
</table>

＊：エンジン再始動後も点滅する場合はお買いあげ販売店へお申しつけください。

異常にお気づきの場合は、お買いあげ販売店へお申しつけください。

① エンジンがかからない

現象	原因	解決方法
キャブレータに燃料がこない	燃料タンクにガソリンがない	補給:25頁参照
	燃料コックが開いていない	燃料コック　レバーを“出”の位置にする:16頁参照
	燃料フィルターの詰まり	お買いあげ販売店にお申し付けください
	燃料配管の凍結	お買いあげ販売店にお申し付けください
キャブレータに燃料はくる	キャブレータのオーバーフロー	お買いあげ販売店にお申し付けください
	キャブレータの詰まり	お買いあげ販売店にお申し付けください
エンジン　オイルが少ない	エンジン　オイルが上限まで無い	補給:27頁参照
スタータが回らない	バッテリがあがっている	バッテリの充電または交換:57､65頁参照
	ヒューズが切れている	ヒューズの点検､交換:60頁参照
	バッテリ端子が外れている	バッテリの点検28､57頁参照
	始動時に走行クラッチ　レバー、除雪クラッチ　ボタンを押している	これらの操作をしていると､スタータは回りません｡エンジンのかけかた:30､31頁参照
スタータは回る	点火プラグの汚れ	お買いあげ販売店にお申し付けください
	点火プラグキャップの取付け不良	点火プラグ　キャップを確実に取付ける:53頁参照
	点火プラグの破損	点火プラグの交換:53頁参照

② うまく走行できない

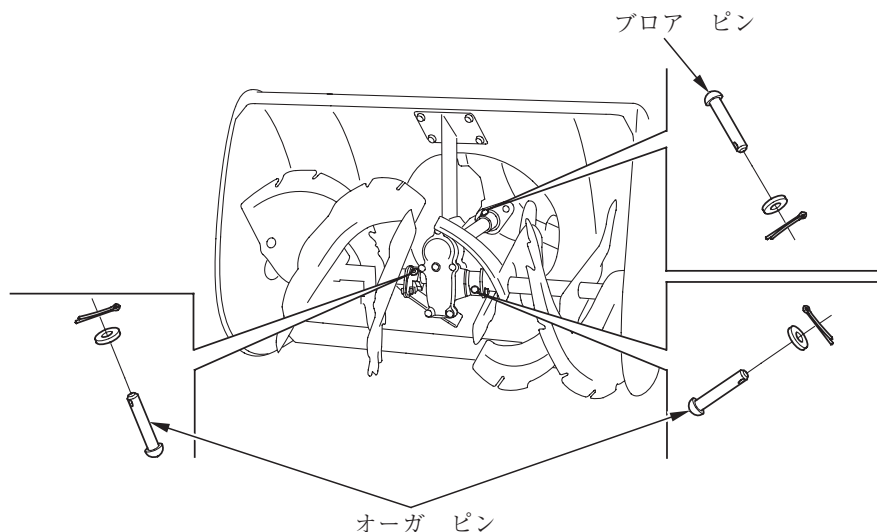
現象	原因	解決方法
除雪作業中に進みにくい	オーガ　ロック　ボルトが折れている	オーガ　ロック　ボルトの点検、交換:29頁参照
	オーガの高さが適正でない	オーガ　ハウジング調節:21、35頁参照
	除雪部に雪が付着、堆積している	オーガ　ハウジング下部に堆積した雪の除去。除去方法、雪かき棒の使いかた:23頁参照
うまく後進できない	オーガの高さが“高”になっていない	オーガ　ハウジング調節:21、35頁参照
走行クラッチ　レバーを握っても走行しない	クローラのホイール　ピンが外れている	お買いあげ販売店にお申し付けください
	警告灯(赤)が点滅または点灯している	警告灯(赤)の点滅回数を確認して(69頁参照)お買いあげ販売店にお申し付けください※1
旋回しない(旋回しにくい)	雪が多く積もっている所で、除雪部が雪に埋まっている	速度を低速にして旋回ボタンを押しながらハンドルに力を加えて向きをかえてください。
	旋回ボタンを押したとき、旋回したい方向のクローラが減速または停止していない	スイッチ、リレー、走行モータなどの故障が考えられます。お買いあげ販売店にお申し付けください
バッテリ走行ができない	バッテリ走行モードになっていない	左右の旋回ボタンを同時に約3秒間押し続ける操作が必要です。バッテリ走行システムの操作方法:40頁参照
	バッテリ走行が終了後、5秒経過し、表示灯(緑)と警告灯(赤)が点灯している	エンジン　スイッチを“停止”の位置に戻し、もういちど操作を行ってください。バッテリ走行システムの操作方法:40頁参照
	バッテリがあがっている	バッテリの充電または交換:57、65頁参照

※1: 販売店に、ご連絡の際は必ず警告灯(赤)の点滅回数をお伝えください。

⚠注意

- 柔らかい雪が多く積もっている状態では本機が雪に乗り上げて走行しにくい場合があります。
  クローラがスリップしないように低速で走行するか、ハンドルを押したり引っ張ったりしながら脱出してください。
- エンジン　スイッチを“運転”の位置で放置するとバッテリが消耗し、エンジンが始動できなくなります。
  バッテリ走行終了後は、必ずエンジン　スイッチを“停止”の位置にしてください。

③ うまく除雪作業ができない

現象	原因	解決方法
シュータから雪が出ない	シュータに雪が詰まっている	除去方法、雪かき棒の使いかた:23頁参照
ブロアが回転しない	ブロア　ロック　ボルトが折損している	ブロア　ロック　ボルトの点検、交換:29頁参照
	ブロア　ピンが折損している(下図)	お買いあげ販売店にお申し付けください
	除雪クラッチ　ボタンを押しても、ブロアが回転しない	スイッチ、電磁クラッチなどの故障が考えられます。お買いあげ販売店にお申し付けください
オーガが回転しない	オーガ　ロック　ボルトが折損している	オーガ　ロック　ボルトの点検、交換:29頁参照
	オーガ　ピンが折損している(下図)	お買いあげ販売店にお申し付けください
	除雪クラッチ　ボタンを押しても、オーガが回転しない	スイッチ、電磁クラッチなどの故障が考えられます。お買いあげ販売店にお申し付けください
雪の飛びが悪い	エンジンの負荷がきつい	走行速度を下げる:42頁参照
	ブロアが変形している	ブロアの交換:56頁参照
	ブロア　ロック　ボルトが折損している	ブロア　ロック　ボルトの点検、交換:29頁参照
	オーガ　ロック　ボルトが折損している	オーガ　ロック　ボルトの点検、交換:29頁参照
	ブロア　ピンが折損している	お買いあげ販売店にお申し付けください
	オーガ　ピンが折損している	

現象	原因	解決方法
硬い雪に乗り上げて 食い込まない オーガ　ハウジングから雪が あふれてしまう	オーガの高さが適正ではない	オーガ　ハウジング調節:21、35頁参照
	オーガ　ロック　ボルトが折損している	オーガ　ロック　ボルトの点検、交換:29頁参照
	オーガが摩耗している	オーガの交換:56頁参照
	ブロア　ロック　ボルトが折損している	ブロア　ロック　ボルトの点検、交換:29頁参照
	ソリ、スクレーパの高さが適正ではない	ソリ、スクレーパの調節:33頁参照
オーガが路面に当たる	オーガの高さが適正ではない	オーガ　ハウジング調節:21、35頁参照
	ソリ、スクレーパの高さが適正ではない	ソリ、スクレーパの調節:33頁参照
除雪部から異音がする	オーガ、ブロアの羽根、シャフトなどが変形している	お買いあげ販売店にお申し付けください
投雪方向が調節できない	ヒューズが切れている	ヒューズの点検、交換:60頁参照
	モータの過熱(ブレーカ作動)	しばらく待つ。投雪方向調節スイッチを押したままにしない
	モータまたはリレー、 スイッチの故障	お買いあげ販売店にお申し付けください
警告灯(赤)が点滅または 点灯する	電装システムの異常、または故障	警告灯(赤)の点滅回数を確認して(69頁参照)お買いあげ販売店にお申し付けください※1

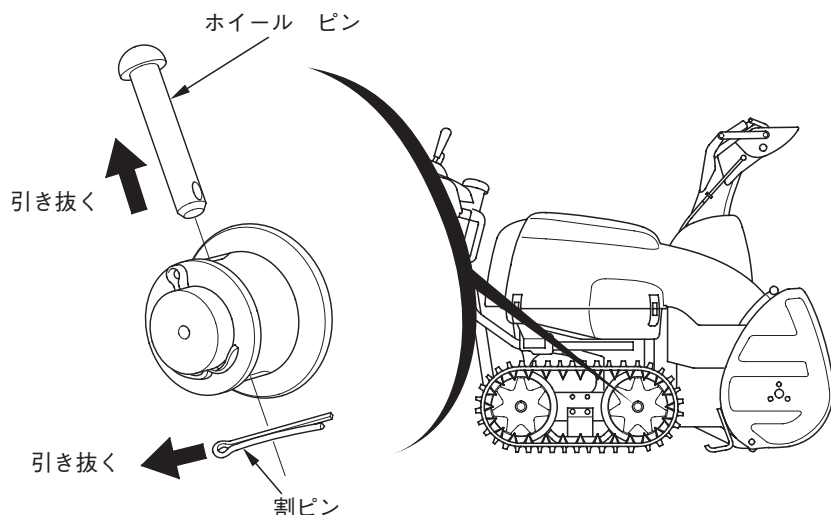
- 積雪が5cmに満たないような条件では、雪がまとまって遠くに飛ばない傾向にあります。このようなときは、前後進速度調節レバーを高速にし、多くの雪を集めると飛びやすくなります。

※1: 販売店に、ご連絡の際は必ず警告灯(赤)の点滅回数をお伝えください。

④ その他のトラブル

現象	原因	解決方法
オーガの高さが調整できない	高さ調整ケーブルの調整不良	オーガ調整部分の点検が必要になります お買いあげ販売店にお申し付けください
	高さ調整ダンパーの故障	
クローラが外れてしまう	クローラがゆるんでいる	クローラの張り点検、調整:54頁参照
作業灯が点灯しない	バッテリがあがっている	バッテリの充電または交換:57、65頁参照
	ヒューズがきれている	ヒューズの点検、交換:60頁参照
	作業灯のバルブが切れている	お買いあげ販売店にお申し付けください
エンジン回転が安定しない マフラから黒煙がでる	エンジン回転調節レバーがチョークの位置になっている	エンジン暖機運転後はエンジン回転調節レバーを高速の位置に戻して作業を行ってください:31頁参照

- 本機が動かなくなったときの移動手順
  1. 左右前輪駆動輪の割ピンを引き抜きます。
  2. 左右前輪駆動輪のホイール　ピンを引き抜くと、クローラが空転状態となり、押して移動することができます。

⚠警告

- ホイール　ピンを抜くときはエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチ　キーを抜き、各回転部が完全に止まってから作業を行ってください。
- 傾斜地ではホイール　ピンを抜かないでください。本機が空走して、思わぬ事故を招くことがあります。
- 移動後は平坦な場所に駐車し、ホイール　ピンを取り付けるときは新しい割ピンを使用してください。

主　要　諸　元

名　称	HSS970i
型　式	SAGJ

エンジン

名　称	GXV340T2
最大出力／回転速度（SAE J1349に準拠＊）	6.6 kW (9.0 PS)/3,600 rpm
排気量	337 cm³
内径×行程	82.0 × 64.0 mm
始動方式	セルフ　スタータ
点火方式	トランジスタ　マグネト点火
オイル容量	1.1 ℓ
燃料タンク容量	6.4 ℓ
点火プラグ	BPR5ES(NGK)
バッテリ	12 V 30 Ah/20 HR (34B17L)

＊ここに表示したエンジン出力はSAE J1349に準拠して3,600rpm（エンジン最大出力）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。
完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

フレーム

全　長	1,510 mm
全　幅	725 mm
全　高	1,155 mm
乾燥質量（重量）	156 kg
除雪幅	710 mm
除雪高	510 mm
投雪距離	最大17m（雪質および投雪方向により異なります。）

注意：諸元は改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

主　要　諸　元

名　　　称	HSS1170i
型　　　式	SAEJ

エンジン

名　　　称	GXV390T1
最大出力／回転速度 （SAE J1349に準拠＊）	7.6 kW (10.3 PS)/3,600 rpm
排　気　量	389 cm³
内　径　×　行　程	88.0 × 64.0 mm
始　動　方　式	セルフ　スタータ
点　火　方　式	トランジスタ　マグネト点火
オ　イ　ル　容　量	1.1 ℓ
燃料タンク容量	6.4 ℓ
点　火　プ　ラ　グ	BPR5ES(NGK)
バ　ッ　テ　リ	12 V 30 Ah/20 HR (34B17L)

＊ここに表示したエンジン出力はSAE J1349に準拠して3,600rpm（エンジン最大出力）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。
完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

フレーム

全　　　長	1,510 mm
全　　　幅	725 mm
全　　　高	1,155 mm
乾燥質量（重量）	156 kg
除　雪　幅	710 mm
除　雪　高	510 mm
投　雪　距　離	最大17m（雪質および投雪方向により異なります。）

注意：諸元は改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

配 線 図
オーガ ハウジング ブロック
トランスミッション ブロック
アンダー カバー ブロック
エンジン ブロック
コントロール パネル ブロック
ACジェネレータ
右電磁ブレーキ
右モータ
電磁クラッチ
左モータ
左電磁ブレーキ
アース
フューエル カット ソレノイド
スタータ モータ
イグニッション コイル
スパーク プラグ
スタータ リレー
フューエル カット リレー
上／下 コントロール リレー
シュータ ガイド モータ
コンビネーション スイッチ
シュータ スイッチ
ECU
バッテリ
メイン ヒューズ
ワーク ライト (25W)
モータ ヒューズ
ACG ヒューズ
ヒューズ ブレード
コントロール リレー 右／左
右パワー リレー
左パワー リレー
シュータ モータ
右ターン スイッチ
オーガ スイッチ
オーガ (緑)
インジケータ
警告 (赤)
アクセル センサ POT
イニシャル カプラ
PCカプラ
左ターン スイッチ
走行モータ スイッチ
レバーを握る→スイッチー閉じる

Honda汎用製品についてのご相談・ご意見は、
まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

全国共通フリーダイヤル　0120-112010
（受付時間　9：00〜12：00　13：00〜17：00）